

# NYC-STI-GW

## ■ 工事説明書 ■

お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

本書は、本製品の工事を行う技術者、保守を行う技術者が読むことを想定して記載しています。  
本製品の工事、保守を行うためには情報通信ネットワークに関する知識が必要です。

### 安全にお使いいただくために必ずお読みください

本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**おねがい**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能の停止をまねく内容を示しています。

お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



禁止

してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- この装置は、日本国内用に設計されておりますので、海外では使用できません。  
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品および本書の一部または全部の無断改変、無断転載、無断複写を禁止いたします。
- 本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規則並びに米国輸出管理規則など各国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
- 本書に記載の各会社名および各製品名等は、それぞれの会社の商標または登録商標です。なお、本文中には、™、®は明記しておりません。
- 本書の画面は、一例です。説明に関係ない部分については、実際とは多少異なる場合があります。
- Bluetooth®は、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、使用許諾契約の下で弊社にライセンスされています。
- 「NYC Reception」「ナイス レセプション」は、株式会社ナカヨの登録商標です。
- NYC Receptionのアイコンは、株式会社ナカヨの登録商標です。

# NAKAYO



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

火災・感電などを防ぐために



禁止

■分解・修理・改造しない。

修理は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

■オプションのACアダプタ以外を使用しない。

■ぬれた手でACアダプタの抜き差しをしない。

■ACアダプタ・各種ケーブルに水をかけたり、ぬらしたりしない。

ぬれた場合は、ACアダプタ・各種ケーブルを抜いて、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

■水がかかる恐れのある場所には設置しない。

本製品を雨水がかかる場所、ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。また、本製品のそばに、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器を置かないでください。ぬれた場合は、ACアダプタ・各種ケーブルを抜いて、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。また、各種ケーブルのコネクタがぬれた場合は、乾いても使用しないでください。

■直射日光の当たるところや、暖房設備などの著しく温度が上昇する場所に設置しない。

■調理台のそばなど、油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に設置しない。

■本製品を指定外の置き方や重ね置きにしない。

■本製品の通風孔をふさがない。

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。次のような設置のしかたはしないでください。

・じゅうたんや布団の上に置く。

・テーブルクロスなどをかける。

・収納棚や本棚、タンスの中、押入れの中など風通しの悪い狭い場所に置く。

■雷が鳴ったら、本製品やACアダプタ・各種ケーブルに触れない。

■機器内部に金属物や燃えやすいものなどの異物を入れない。

金属物や異物が入った場合は、すぐにACアダプタ・各種ケーブルを抜いて、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

■コネクタを金属物でショートさせない。

■各種ケーブルを破損するようなことをしない。

傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、束ねるなど、傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。修理は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100V以外で使用しない。

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■本製品を電子レンジに入れたり、電磁調理機器などの近くに置いたりしない。

■本製品を落としたりするなどの衝撃を与えない。

万一、本製品を破損した場合は、すぐにACアダプタ・各種ケーブルを外し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご相談ください。



## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 火災・感電などを防ぐために



■ACアダプタは、根元まで確実に差し込む。

ACアダプタの刃に金属などが触れたり、差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだACアダプタは、使用しないでください。

■ACアダプタのほこりなどは定期的にとる。

ACアダプタにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因になります。ACアダプタ・各種ケーブルを抜き、乾いた布でふいてください。

■発煙・異臭・異音が出たり、落下・破損したときは、すぐにACアダプタ・各種ケーブルを抜く。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。使用を中止し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

■ACアダプタを抜くときは、ACアダプタの本体(金属でない部分)を持って抜く。

ケーブルを持って抜くと、ケーブルの断線による火災・感電の原因になります。

■工事配線の確認をする際、ACアダプタ等の周辺機器をコンセントから抜く。

感電・故障の原因となります。

### 事故などを防ぐために



禁止

■高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器や心臓ペースメーカ、植え込み型除細動器などの近くに設置や使用をしない。

医療用電子機器の近くや病院内など、使用を制限された場所では使用しないでください。電子機器や心臓ペースメーカ、植え込み型除細動器などが誤作動するなどの原因となります。



## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 事故・けが・財産の損害などを防ぐために



禁止

■水平でない場所や振動の激しい場所で使用しない。

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所で使用すると、バランスがくずれて倒れたり落下して、けが・破損・故障の原因となることがあります。

■製氷倉庫など、特に温度が下がる場所には設置しない。

性能低下、機能停止により重要な通信ができない恐れがあります。

■壁掛け設置する場合は、ベニヤ板や石膏ボードには取り付けない。

ねじのしまりが弱く、落下によるけが・破損・故障の原因となることがあります。

■設置跡が気になる場所に設置しない。

本製品の底面にはゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面がまれに変色する恐れがあります。



■壁掛け設置する場合は、本製品の重みにより落下しないよう堅固に取り付け・設置する。

落下して、けが・破損・故障の原因となることがあります。

■長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本製品のACアダプタ・各種ケーブルを抜く。

■オプションのスタンドを間違えないように取り付ける。

本製品のオプションのスタンド(NYC-STAND-MICROSV2)を使用する場合は、設置向きをよく確認して取り付けてください。

## おねがい

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

### 設置環境について

- 硫化水素の発生する場所（温泉地など）や塩分の多いところ（海岸など）でお使いのときは、製品の寿命が短くなる場合があります。
- 本製品はBluetoothでの通信を行います。電波に影響を与える金属やコンクリート壁などの近くに設置すると通信障害を起こすことがありますので避けてください。

### 設置後の扱いについて

- 本製品に接続した各種ケーブルを踏みつけたり、強い力で引っ張ったりしないでください。故障・誤動作の原因となります。
- 本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 本製品をぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本製品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。ただし、各種ケーブルのコネクタ部分は、よくしぼった場合でも、中性洗剤をつけた布では絶対にふかないでください。
- 本製品に水滴がついた場合は、乾いた布でふき取ってください。水滴がついたまま使用すると、故障の原因となることがあります。
- 本製品の動作中に各種ケーブルが外れたり、接続が不安定になると故障や誤動作の原因となることがあります。また、動作中は各種ケーブルには触れないでください。
- 本製品に各種ケーブルを接続する際、方向を確認して接続してください。無理やり接続しようとするとう故障の原因になる場合があります。
- 本製品にマイク機器、スピーカ機器を接続したハンズフリー通話でお話しのときは、以下の点に注意してください。マイク機器の近くには、ものなどを置かないでください。スピーカ機器は、マイク機器の斜め後ろ約30cmを目安として設置してください。ハウリングによりスピーカ機器から「ピー」と鳴ることがあります。

## ワイヤレス機器使用上の注意

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ライン等で使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- (1)本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
  - (2)万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、電波の発射を停止した上、混信回避の処置等（例えば、パーティションの設置など）を行ってください。
  - (3)その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、お困りのことが起きた場合には、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- 本製品は日本国内用に設計されています。海外では使用できません。
  - 次の場所では、電波の反射または干渉により通信ができない場合があります。
    - ・強い磁界、静電気、電波障害が発生するところ（電子レンジの近くなど）。
    - ・金属の壁（金属補強材を埋め込んだコンクリートも含む）の部屋。
    - ・異なる階の部屋同士。
  - 本製品を、テレビやラジオ、コードレス電話機などの近くで使用すると影響を与える場合があります。
  - 周囲の電波状況によっては、本製品の動作に影響が出る場合があります。
  - 本製品に内蔵の無線モジュールは、技術基準適合証明を受けています。本製品の分解・改造を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品は2.4GHz全帯域を使用する設備であり、移動体識別装置の帯域が回避可能です。変調方式としてFH-SS方式を採用しており、与干渉距離は10mです。



- 2.4 : 2.4GHz帯を使用する無線設備を示します。
- FH : 変調方式を示します。
- 1 : 想定される与干渉距離(10m)を示します。
- ■ ■ : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能であることを示します。

ご利用上の注意 (必ずお読みください).....	1
目次.....	4
<b>1章. ご利用の前に</b> .....	<b>5</b>
●主な特長.....	6
●主な特長 ～iPad で二次元コードを使用しない場合～.....	7
●主な特長 ～iPad で二次元コードを使用する場合～.....	8
●主な特長 ～NYC-MICROSV2-LAN で二次元コードを使用しない場合～.....	9
●主な特長 ～NYC-MICROSV2-LAN で二次元コードを使用する場合～.....	10
●主な仕様.....	11
●構成品.....	12
●外観/各部の説明.....	13
●MODE SWITCH の機能.....	14
●ランプ表示説明.....	15
<b>2章. 設置準備</b> .....	<b>16</b>
●設置工事の手順 ～iPad を使用する場合～.....	16
●必要な物品の確認 ～iPad を使用する場合～.....	17
●受付アプリケーションのインストール ～iPad を使用する場合～.....	18
●設置工事の手順 ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	19
●必要な物品の確認 ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	20
●受付アプリケーションのインストール ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	20
●別売品(オプション機器).....	21
<b>3章. 装置の配線と組立</b> .....	<b>23</b>
●本製品の設置(平置き設置) ～iPad を使用する場合～.....	23
●本製品の設置(縦置き設置) ～iPad を使用する場合～.....	25
●本製品の設置(壁掛け設置) ～iPad を使用する場合～.....	26
●本製品の設置(カバー取付方法) ～iPad を使用する場合～.....	27
●Bluetooth 接続について ～iPad を使用する場合～.....	28
●動作確認(iPad の画面をタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合).....	29
●動作確認(iPad のカメラに二次元コードをかざしてアナログ電話機で通話をする場合).....	31
●動作確認(iPad の画面をタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合).....	34
●動作確認(iPad のカメラに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合).....	36
●本製品の設置(平置き設置) ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	39
●本製品の設置(縦置き設置) ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	41
●本製品の設置(壁掛け設置) ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	42
●本製品の設置(カバー取付方法) ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	43
●動作確認(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合).....	44
●動作確認(二次元コードリーダーに二次元コードを読み取らせてアナログ電話機で通話をする場合).....	46
●動作確認(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合).....	49
●動作確認(二次元コードリーダーに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合).....	51
<b>付録</b> .....	<b>54</b>
●MODE SWITCH の機能詳細.....	54
●トラブルシューティング ～iPad を使用する場合～.....	55
●トラブルシューティング ～NYC-MICROSV2-LAN を使用する場合～.....	56
●お手入れ(清掃の方法).....	57
●故障機器の送付先等.....	58
●本製品の廃棄について.....	58

## 1章. ご利用の前に

本書は、NYC-STI-GW(本製品と表記)の設置工事について説明しています。

本製品のサポート情報や説明書の最新版は、下記サポートサイトからご確認いただけます。  
必ず最新版をダウンロードして、お読みください。

<https://www.hoshunet.jp/nyc/MicroServer2/>

ユーザー名 : microserver2id

パスワード : microserver2pass

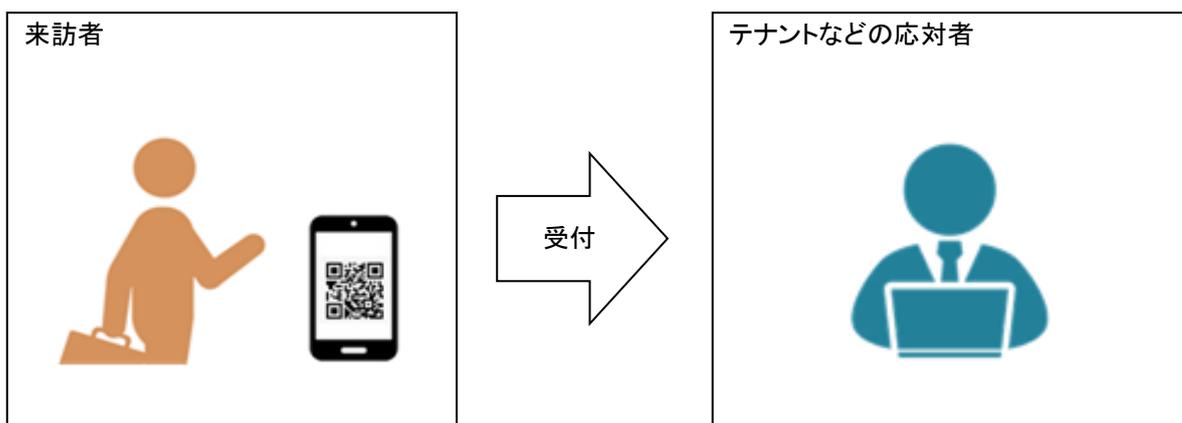


## ●主な特長

本製品は、弊社で開発した受付アプリケーションをインストールした機器と接続して利用します。

接続例をご確認のうえ、ご利用シーンに応じる構成を選択してください。

接続例	ご利用シーン	来訪者の受付方法	エレベーターや自動ドアの制御	備考
接続例1-1 接続例1-2	●受付を希望する来訪者を迎える機器がiPadで、二次元コードを使用しないシンプルな構成の受付システムです。 ●来訪者によるiPadの操作で受付操作をして、対応者側の電話機を呼び出します。	iPadの画面をタッチ操作する。	使用しない (使用不可)	本書P7をご確認ください。
接続例2-1 接続例2-2	●受付を希望する来訪者を迎える機器がiPadで、二次元コードを使用する便利な構成の受付システムです。 ●テナントなどの対応者側であらかじめ二次元コードを発行し、来訪者による二次元コードをかざすことで受付して、対応者側の電話機を呼び出します。	iPadのカメラに二次元コードを読み取らせる。	使用しない (使用不可)	本書P8をご確認ください。
接続例3-1 接続例3-2	●受付を希望する来訪者を迎える機器がタッチパネルディスプレイで、二次元コードを使用しないシンプルな構成の受付システムです。 来訪者によるタッチパネルディスプレイの操作で受付操作をして、対応者側の電話機を呼び出します。	タッチパネルディスプレイをタッチ操作する。	使用しない (使用不可)	本書P9をご確認ください。
接続例4-1 接続例4-2	●受付を希望する来訪者を迎える機器がタッチパネルディスプレイで、二次元コードを使用する便利な構成の受付システムです。 ●テナントなどの対応者側であらかじめ二次元コードを発行し、来訪者による二次元コードをかざすことで受付して、対応者側の電話機を呼び出します。	二次元コードリーダーに二次元コードを読み取らせる。	使用する/しない (使用可能)	本書P10をご確認ください。



## ⚠ 警告

- 本製品及び各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合でも、雨水がかかる恐れがある場所には設置しないでください。火災・故障の原因となります。

## お知らせ

は、本製品を取り扱ううえでの注意事項や知っておくと便利な内容を記載しています。

## お知らせ

- 詳しくは、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。

## 1. ご利用の前に

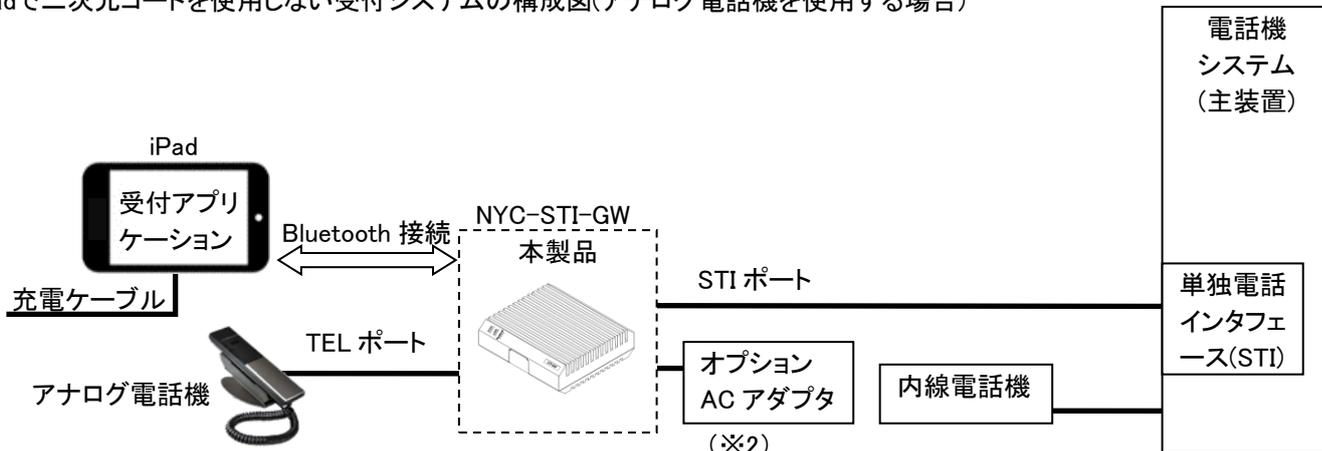
### 主な特長 ～iPadで二次元コードを使用しない場合～

#### ●主な特長 ～iPadで二次元コードを使用しない場合～

利用例	備考
<b>■iPad用受付アプリケーションとの利用例</b> 本製品は、iPadとBluetooth接続して利用します。iPad用受付アプリケーションから発信先電話番号を取得し、STIポートの接続先に発信を行います。発信は、PB発信、DP発信が選択可能です。 なお、本製品に接続のアナログ電話機で、STIポート接続先への発信/着信/通話をすることができますが、アナログ電話機を使用しない場合、主装置からの着信に応答することはできません。	(※1)

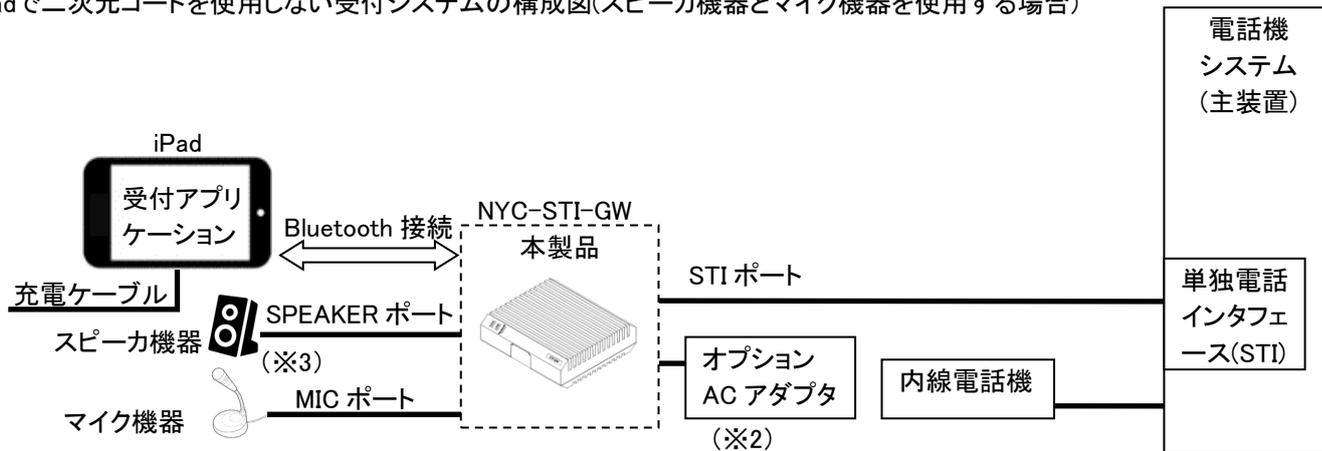
#### (1)接続例1-1

iPadで二次元コードを使用しない受付システムの構成図(アナログ電話機を使用する場合)



#### (2)接続例1-2

iPadで二次元コードを使用しない受付システムの構成図(スピーカ機器とマイク機器を使用する場合)



### ⚠ 警告

- 本製品及び各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合でも、雨水がかかる恐れがある場所には設置しないでください。火災・故障の原因となります。

### おねがい

- (※2)本製品は給電のためのACアダプタがオプションとなっており、付属はしていません。iPadをご利用の場合は、オプションACアダプタを購入してください。
- (※3)スピーカ機器は、マイク機器の斜め後ろ約30cmを目安として設置してください。ハウリングによりスピーカから「ピー」と鳴ることがあります。
- 本製品を設置する場所は、iPadを設置する場所から半径約5m以内を推奨します。

### おしらせ

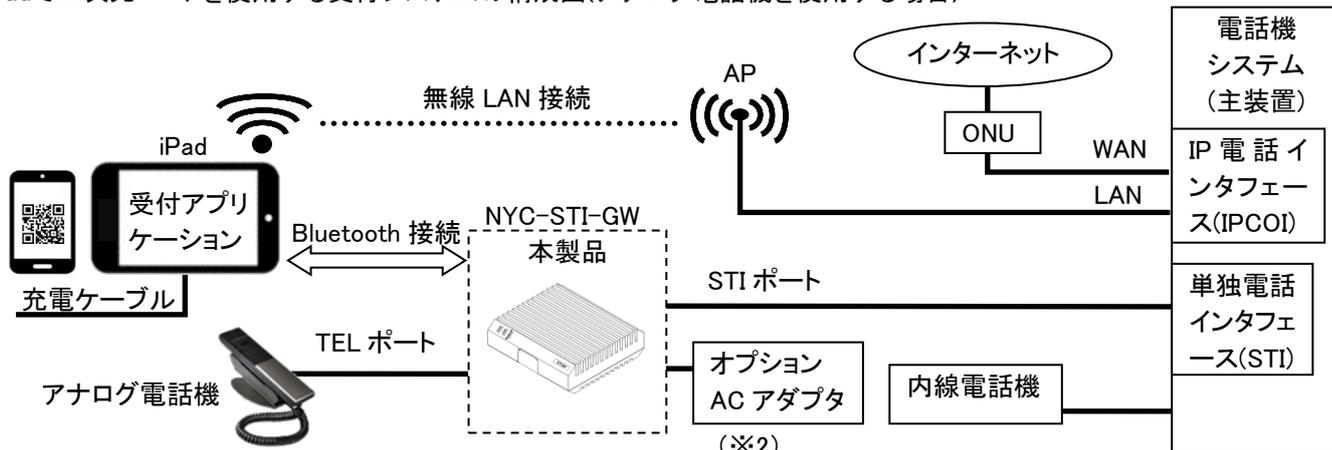
- (※1)詳しくは、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認ください。
- 本製品以外の機器に関する詳細については、各機器の説明書をご覧ください。

●主な特長 ～iPadで二次元コードを使用する場合～

利用例	備考
<p>■iPad用受付アプリケーションとの利用例</p> <p>本製品は、iPadとBluetooth接続して利用します。iPadのカメラで読み取った二次元コードをインターネット上の二次元コード発行システムと照合した後、二次元コード内に含まれる発信先電話番号をiPad用受付アプリケーションから取得し、STIポートの接続先に発信を行います。発信は、PB発信、DP発信が選択可能です。なお、本製品に接続のアナログ電話機で、STIポート接続先への発信/着信/通話をすることができますが、アナログ電話機を使用しない場合、主装置からの着信に应答することはできません。</p>	(※1)

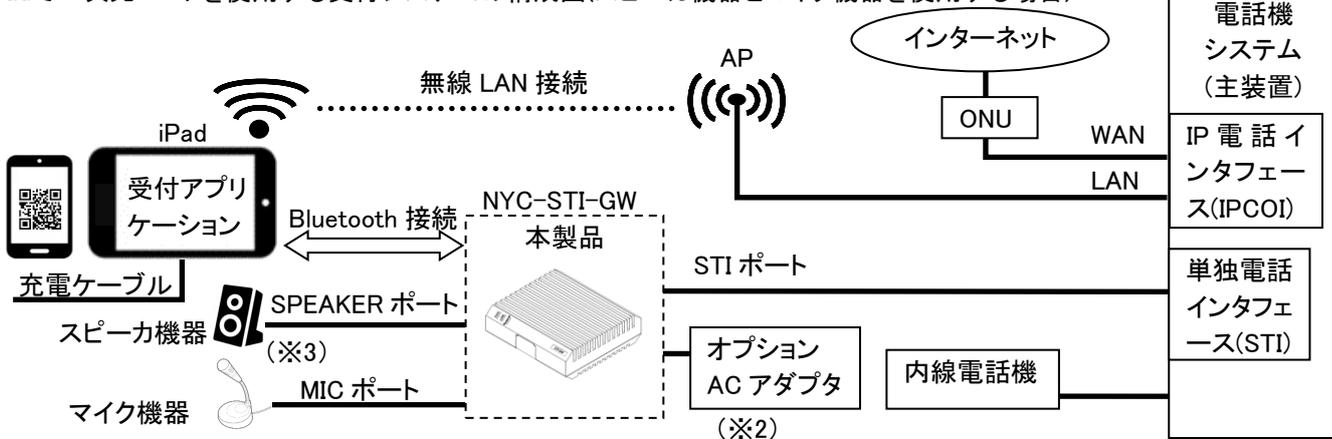
(3)接続例2-1

iPadで二次元コードを使用する受付システムの構成図(アナログ電話機を使用する場合)



(4)接続例2-2

iPadで二次元コードを使用する受付システムの構成図(スピーカ機器とマイク機器を使用する場合)



⚠ 警告

- 本製品及び各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合でも、雨水がかかる恐れがある場所には設置しないでください。火災・故障の原因となります。

おねがい

- (※2)本製品は給電のためのACアダプタがオプションとなっており、付属はしていません。iPadをご利用の場合は、オプションACアダプタを購入してください。
- (※3)スピーカ機器は、マイク機器の斜め後ろ約30cmを目安として設置してください。ハウリングによりスピーカから「ピー」と鳴ることがあります。
- 本製品を設置する場所は、iPadを設置する場所から半径約5m以内にするを推奨します。

おしらせ

- (※1)詳しくは、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認ください。
- 本製品以外の機器に関する詳細については、各機器の説明書をご覧ください。

## 1. ご利用の前に

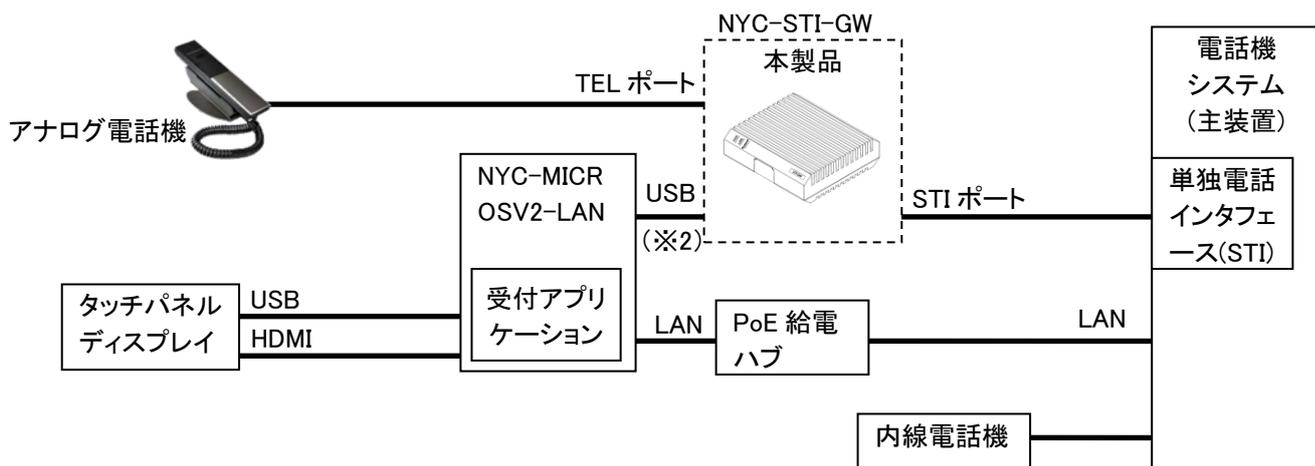
### 主な特長 ～NYC-MICROSV2-LANで二次元コードを使用しない場合～

#### ●主な特長 ～NYC-MICROSV2-LANで二次元コードを使用しない場合～

利用例	備考
<p>■NYC-MICROSV2-LAN用受付アプリケーションとの利用例</p> <p>本製品は、NYC-MICROSV2-LANとUSB接続して利用します。タッチパネルディスプレイによる受付操作を基に、NYC-MICROSV2-LAN用受付アプリケーションが本製品に発信先電話番号を送信し、STIポートの接続先に発信を行います。発信は、PB発信、DP発信が選択可能です。</p> <p>なお、本製品に接続のアナログ電話機で、STIポート接続先への発信/着信/通話をすることができますが、アナログ電話機を使用しない場合、主装置からの着信に応答することはできません。</p>	(※1)

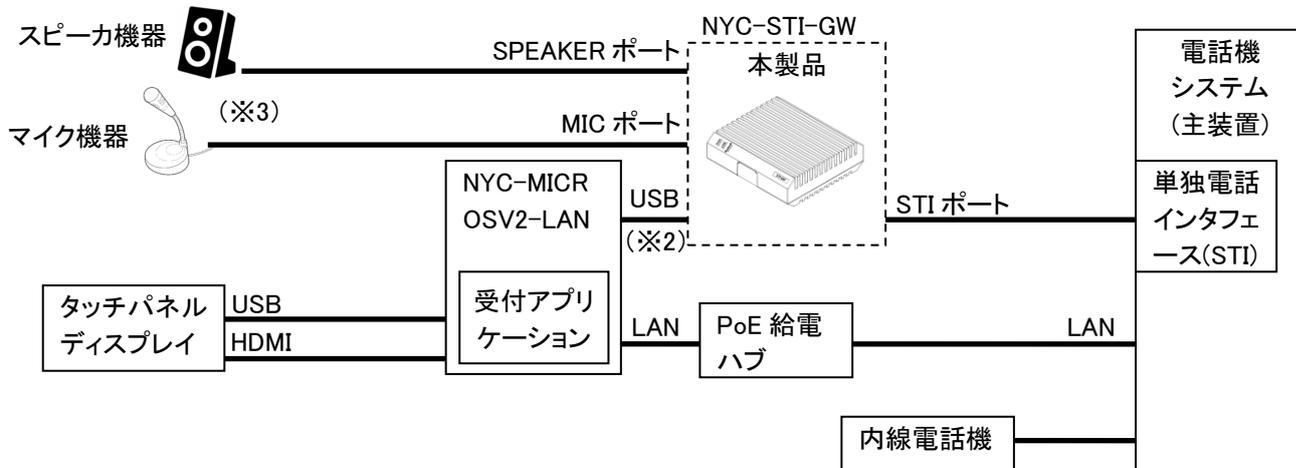
#### (5)接続例3-1

NYC-MICROSV2-LANで二次元コードを使用しない受付システムの構成図(アナログ電話機を使用する場合)



#### (6)接続例3-2

NYC-MICROSV2-LANで二次元コードを使用しない受付システムの構成図(スピーカ機器とマイク機器を使用する場合)



### ⚠ 警告

- 本製品及び各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合でも、雨水がかかる恐れがある場所には設置しないでください。火災・故障の原因となります。

### おねがい

- (※2)本製品への給電は、NYC-MICROSV2-LANと付属のUSBケーブルで接続することで給電可能となります。
- (※3)スピーカ機器は、マイク機器の斜め後ろ約30cmを目安として設置してください。ハウリングによりスピーカから「ピー」と鳴ることがあります。

### おしらせ

- (※1)詳しくは、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認ください。
- 本製品以外の機器に関する詳細については、各機器の説明書をご覧ください。

# 1. ご利用の前に

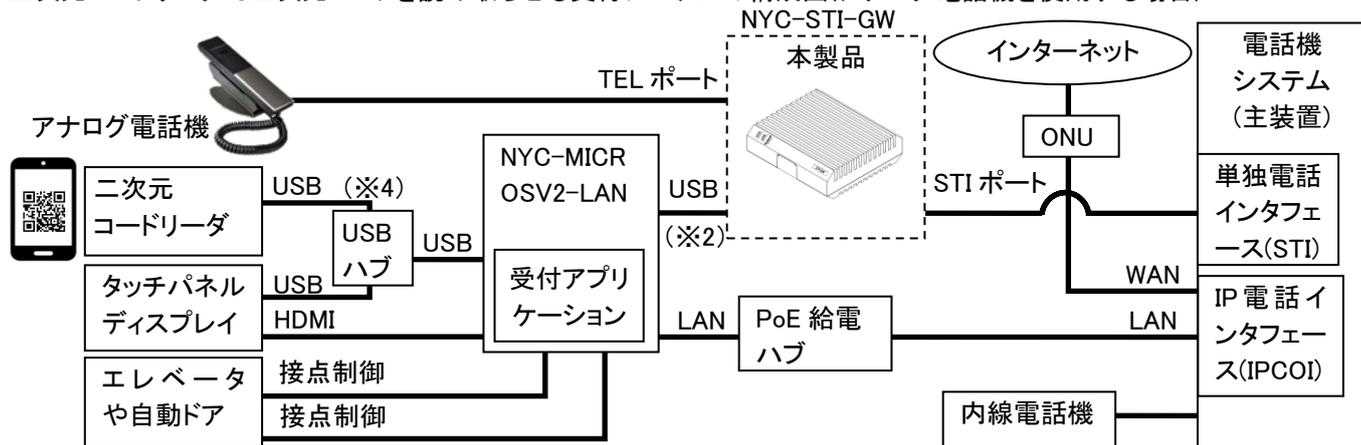
## 主な特長 ～NYC-MICROSV2-LAN で二次元コードを使用する場合～

### ●主な特長 ～NYC-MICROSV2-LANで二次元コードを使用する場合～

利用例	備考
<p>■NYC-MICROSV2-LAN用受付アプリケーションとの利用例</p> <p>本製品は、NYC-MICROSV2-LANとUSB接続して利用します。二次元コードリーダーで読み取った二次元コードをインターネット上の二次元コード発行システムと照合した後、二次元コード内に含まれる発信先電話番号をNYC-MICROSV2-LAN用受付アプリケーションが本製品に送信し、STIポートの接続先に発信を行います。発信は、PB発信、DP発信が選択可能です。</p> <p>なお、本製品に接続のアナログ電話機で、STIポート接続先への発信/着信/通話をすることができますが、アナログ電話機を使用しない場合、主装置からの着信に応答することはできません。</p>	(※1)

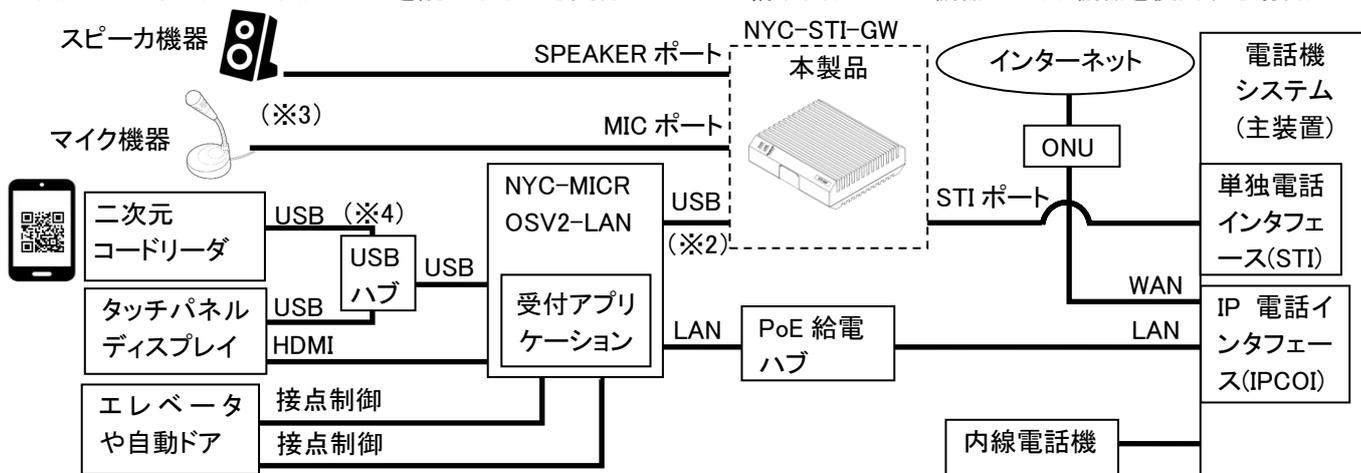
#### (7)接続例4-1

二次元コードリーダーで二次元コードを読み取らせる受付システムの構成図(アナログ電話機を使用する場合)



#### (8)接続例4-2

二次元コードリーダーで二次元コードを読み取らせる受付システムの構成図(スピーカ機器とマイク機器を使用する場合)



### 警告

- 本製品及び各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合でも、雨水がかかる恐れがある場所には設置しないでください。火災・故障の原因となります。

### おねがい

- (※2) 本製品への給電は、NYC-MICROSV2-LANと付属のUSBケーブルで接続することで給電可能となります。
- (※3) スピーカ機器は、マイク機器の斜め後ろ約30cmを目安として設置してください。ハウリングによりスピーカから「ピー」と鳴ることがあります。
- (※4) 二次元コードリーダーは、USBハブ(セルフパワータイプ)に接続してください。

### おしらせ

- (※1) 詳しくは、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。
- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認いただけます。
- 本製品以外の機器に関する詳細は、各機器の説明書をご覧ください。

## ●主な仕様

項目	仕様	備考	
TELポート	RJ11コネクタ	(※1)アナログ電話機(直流抵抗300Ω以下)を接続	
STIポート	RJ11コネクタ	(※2)主装置の単独電話インタフェースと接続	
通信インタフェース	USB	USB2.0	—
	Bluetooth	Bluetooth Version: 5.0準拠 接続台数: 1台 伝送距離: 最大約10m(障害物がない場合) ※一般利用で約5mが利用可能な範囲です。 対応プロファイル: GATT	Bluetooth Low Energy
SPEAKERポート	Φ3.5ミニピンジャック モノラル出力 出カインピーダンス: 600Ω	(※3)	
MICポート	Φ3.5ミニピンジャック モノラル入力 入カインピーダンス: 2KΩ	(※3)	
ランプ	POWランプ	緑色LED	—
	LINEランプ	緑色LED	—
	Bluetoothランプ	青色LED	—
Bluetoothボタン	ボタン	Bluetooth接続用	
MODE SWITCH	1: USB/Bluetooth接続切替スイッチ 2: PB/DP切替スイッチ 3: 未使用 4: 未使用 5: 初期化スイッチ 6: 監視タイマ設定スイッチ 7: 通話継続設定スイッチ 8: 未使用	(※4)	
電源	オプションACアダプタ	(※3) 入力電圧: AC100V 入力周波数: 50/60Hz 出力電圧: DC5.0V 出力電流: DC500mA	
消費電力	約2.5W	—	
外形寸法	約165(W)×約155(D)×約51(H)mm	ゴム足含む	
重量	約380g	—	
使用環境	温度0 ~ 40℃ 湿度20 ~ 85%(結露なきこと)	—	

## おねがい

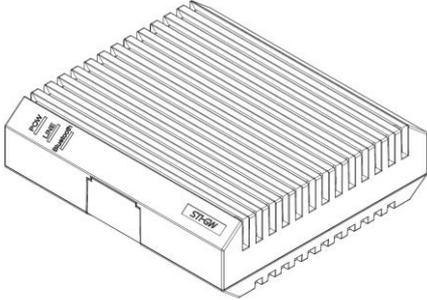
- (※1)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。
- (※2)本製品は供給電流が20mA~40mAの電話機システム(主装置)の単独電話インタフェースに接続してください。供給電流については電話機システム(主装置)の仕様をご確認ください。なお、弊社の単独電話インタフェース(STI)は、供給電流20mA~40mAに適合しています。

## おしらせ

- (※3)本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認ください。
- (※4)MODE SWITCHの詳細については、本製品のサポートサイトの「NYC-STI-GW工事説明書」からご確認ください。

## ●構成品

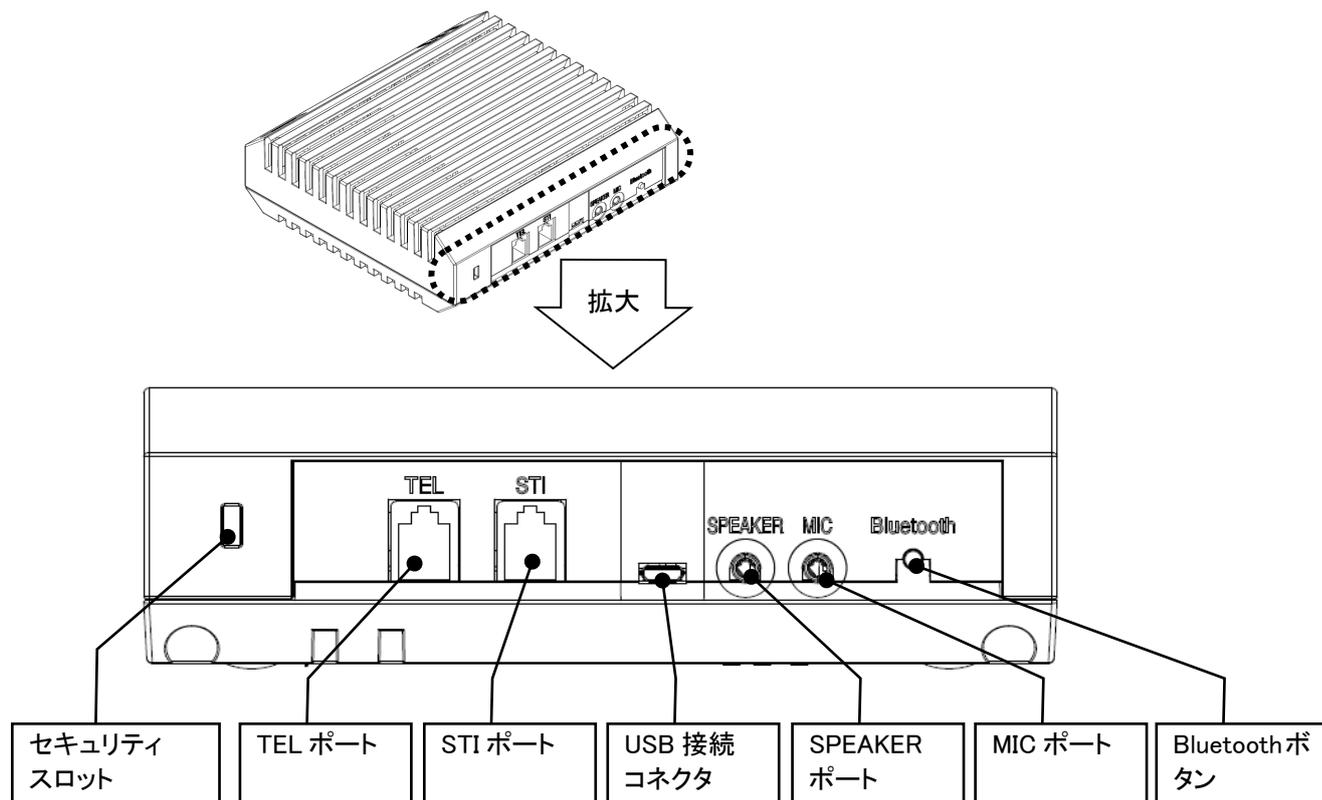
本製品は、製品本体と付属品で構成されています。設置前に全て揃っているか確認してください。  
万一、足りないものがありましたら、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問い合わせください。

NYC-STI-GW [1台]	はじめにお読みください [1部]
	
USB ケーブル [1本] 長さ 1.5m	以下余白
	

## おねがい

- 本製品は給電のためのACアダプタがオプションとなっており、付属はしていません。  
iPadをご利用の場合は、オプションACアダプタを購入してください。

## ●外観/各部の説明



各部の名称	説明
セキュリティスロット	盗難防止用としてご使用ください。(スロットサイズ:3mm×7mm)
TELポート	アナログ電話機(直流抵抗300Ω以下)を接続します。(※1)
STIポート	主装置の単独電話インタフェースに接続します。(※2)
USB接続コネクタ	本製品に付属のUSBケーブルをオプションACアダプタ(※3)またはNYC-MICROSV2-LAN(※3)に接続することで受電が開始され、本製品は起動します。 NYC-MICROSV2-LANに接続時は、受電のほかに発信先等のデータ通信も行われます。
SPEAKERポート	Φ3.5ミニピンジャックのスピーカを接続します。(※3)
MICポート	Φ3.5ミニピンジャックのマイクを接続します。(※3)
Bluetoothボタン	Bluetooth接続するときに使用します。(※4) 操作方法は本書の「Bluetooth接続方法について」を参照してください。

## ⚠ 注意

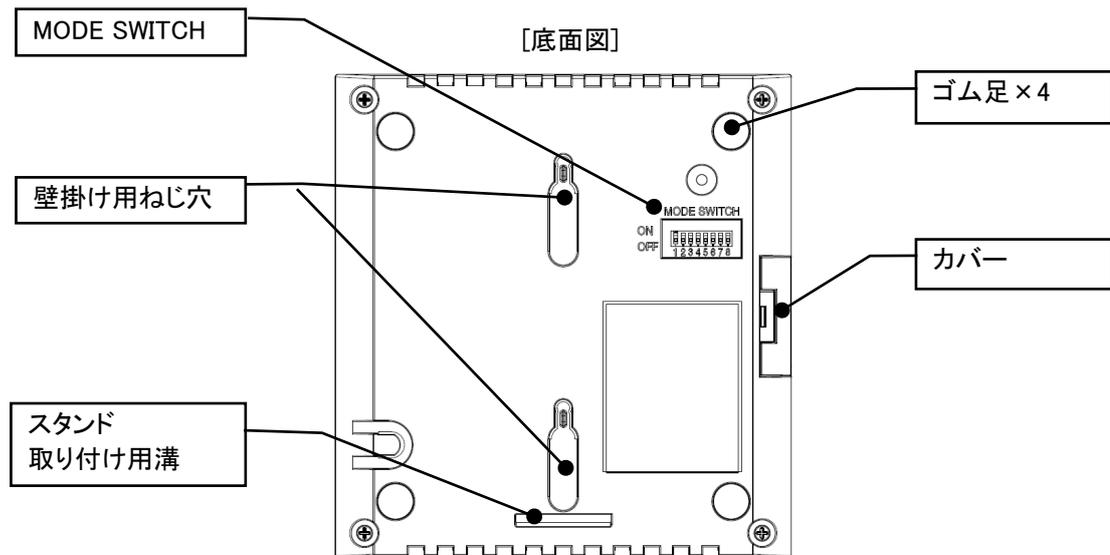
- STIポートを電話機システム(主装置)の単独電話インタフェース以外に接続しないでください。誤った接続を行うと本製品内部のヒューズが切れて、STIポートが使用できなくなります。
- STIポートは、電気通信事業者の加入者回線に接続することはできませんので、ご注意ください。

## おねがい

- (※1)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。
- (※2)本製品は供給電流が20mA～40mAの電話機システム(主装置)の単独電話インタフェースに接続してください。供給電流については電話機システム(主装置)の仕様をご確認ください。なお、弊社の単独電話インタフェース(STI)は、供給電流20mA～40mAに適合しています。

## おしらせ

- (※3)本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認ください。
- (※4)本製品をNYC-MICROSV2-LANに接続する場合、本製品のMODE SWITCHの1をOFF側の状態(工場出荷時)でお使いください。NYC-MICROSV2-LAN接続時にはBluetooth接続・通信は行いません。



各部の名称	説明
MODE SWITCH (※1)	本製品の初期化や設定を変更します。先端の細いもので操作してください。
	1: USB接続/Bluetooth接続切替に使用します。 ON: Bluetooth接続時に使用します。(iPadなど) OFF: Bluetooth機能を使用しないUSBポート接続時に使用します。(NYC-MICROSV2-LANなど)
	2: STIポートの回線種別(PB/DP)設定に使用します。 ON: DP回線接続時に使用します。 OFF: PB回線接続時に使用します。
	3~4: 本製品を利用時はOFF側で使用してください。
	5: 本製品の設定値を初期化する際に使用します。 ON: 本製品起動時、本製品の設定値等を初期化します。 OFF: 通常時
	6: ダイヤル送出してから一定時間経過しても呼出音(トゥルルルル)が検出できなかった場合、既に相手応答したとみなし、強制的に通話状態に移行する機能を有効/無効にする際に使用します。 ON: 強制的に通話状態に移行します。 OFF: 強制的に通話状態に移行しません。
	7: スピーカ機器とマイク機器での通話を一定時間で強制的に終話する機能を有効/無効にする際に使用します。 ON: 強制的に終話しません。 OFF: 強制的に終話します。
	8: 本製品を利用時はOFF側で使用してください。
壁掛け用ねじ穴	本製品を壁掛け設置する際に使用します。
スタンド取り付け用溝	オプションのスタンドを取り付けする際に使用します。
ゴム足	本製品が滑らないようにします。
カバー	本製品では使用しませんので外さないでください。

(※1) 工場出荷時のMODE SWITCHはすべてOFFになっています。

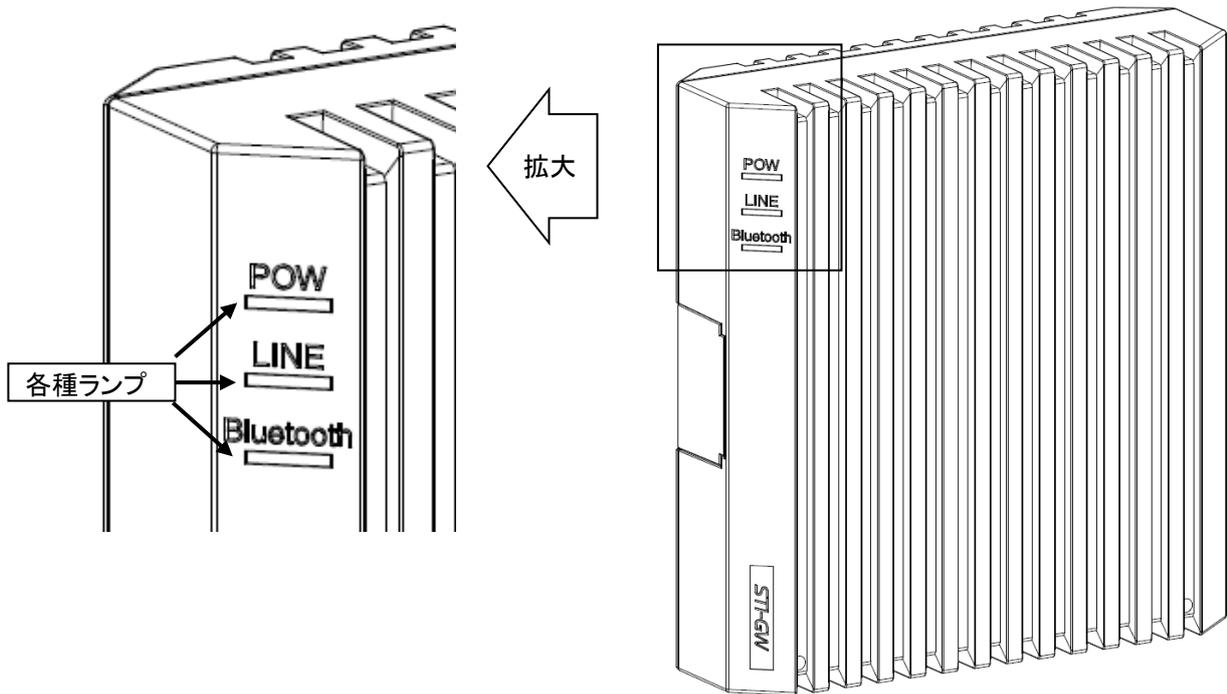
#### ●MODE SWITCHの機能

MODE SWITCHで、上表に記載の機能が選択できます。

電源を切った状態で設定を変更してください。電源を入れたときに変更した内容が有効になります。

詳細は、本書の「付録 ●MODE SWITCHの機能詳細」を参照してください。

●ランプ表示説明



ランプ名称	色	表示パターン	状態
POWランプ	緑	消灯	電源未供給
		点灯	電源供給中
LINEランプ	緑	消灯	本製品に接続された主装置の単独電話インタフェースが未使用(オンフック中)
		点灯	本製品に接続された主装置の単独電話インタフェースが使用中(オフフック中)
Bluetoothランプ	青	消灯	Bluetooth未使用
		点滅	Bluetooth検索中(ペアリングモード)
		周期的に2回点滅	Bluetooth接続中
		遅い点滅	Bluetooth圏外(未接続)

点滅パターン

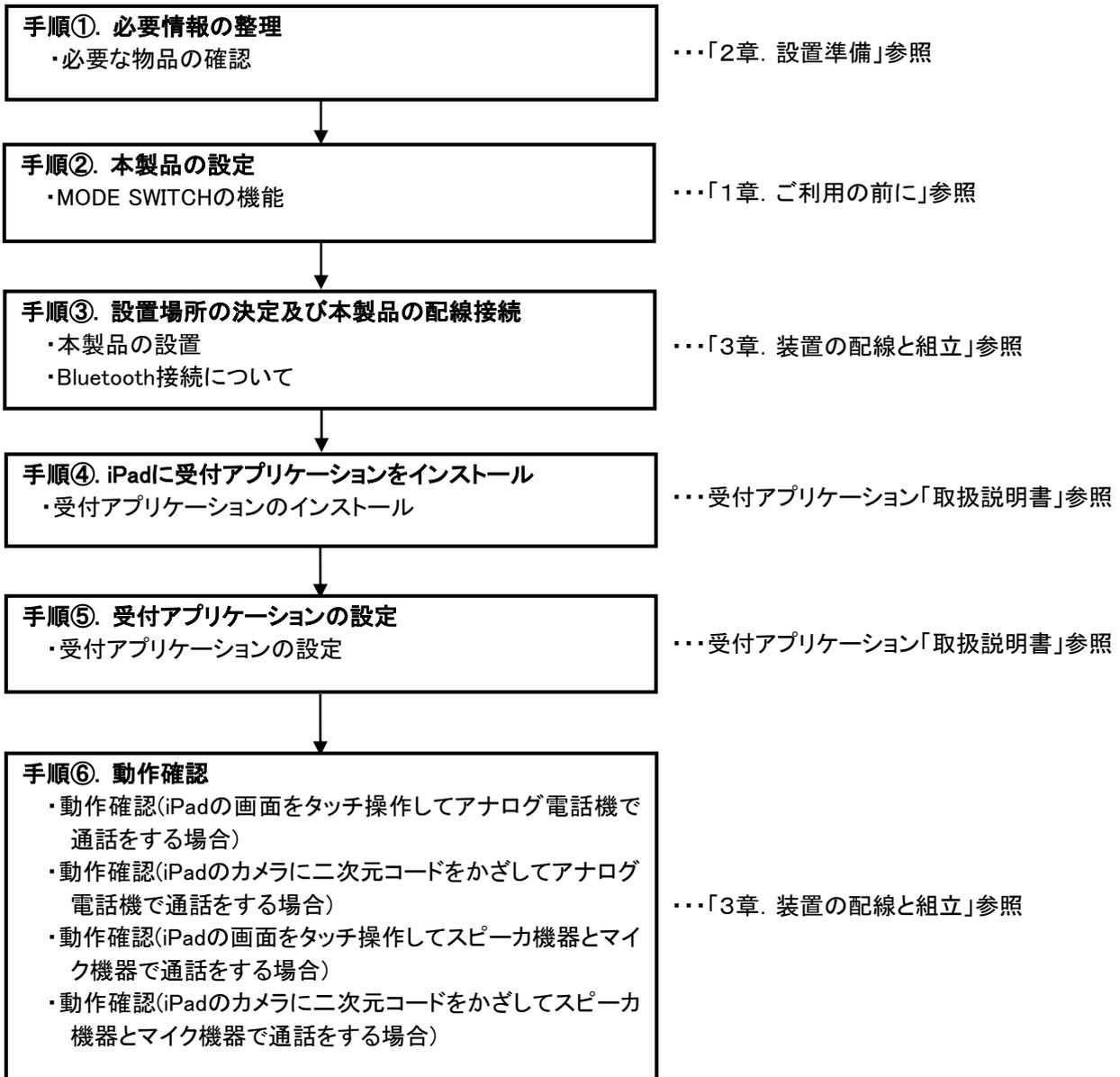
種類	点滅パターン	
点灯	ON  OFF	
消灯	ON OFF 	
遅い点滅	ON  OFF	1000ms点灯、1000ms消灯の繰り返し
点滅	ON  OFF	500ms点灯、500ms消灯の繰り返し
周期的に2回点滅	ON  OFF	125ms点灯、125ms消灯、125ms点灯、1625ms消灯の繰り返し

## 2章. 設置準備

## ●設置工事の手順 ～iPadを使用する場合～

ここでは、本製品の設置工事の手順について説明します。

下記手順を始める前に、本製品と接続する電話機システム(主装置)や内線電話機が使用可能であることを確認してください。



## おねがい

- 本製品や本製品に接続した各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合、チェーンロックなどの盗難防止対策を行うことを推奨します。
- 本製品にチェーンロックを接続する場合は、セキュリティスロットをお使いください。

- 必要な物品の確認 ～iPadを使用する場合～  
受付システムを構築するために必要な物品を記載します。

項目	型番	必須物品		参考
		二次元コード を使用しない 場合	二次元コード を使用する場 合	
本製品	NYC-STI-GW	○	○	—
オプションACアダプタ	NYC-CHGADPA	○	○	(※1)
オプションスタンド	NYC-STAND-MICROSV2	—	—	(※2)
ライセンス発行票	NYC-RECEPTION-APP	○	○	(※1)
受付アプリケーション (NYC Reception APP)	—	○	○	—
iPad	—	○	○	(※3)
主装置と単独電話インターフェース	—	○	○	(※1)(※4)
IP電話インターフェース (インターネット回線契約含む)	—	—	○	(※1)(※5)
スピーカ機器とマイク機器 またはアナログ電話機	—	○	○	(※1)(※3)(※5)(※6)
ローゼット	(一例)NMJ-2	○	○	(※3)
電話機コード	(一例)TPC-DTD	○	○	(※3)
壁掛け用ねじ	—	—	—	サイズ:M3.8×25 木ねじ(丸ねじ)(※7) 数量:2本

・数量は設置するシステムに応じてご用意ください。

### おねがい

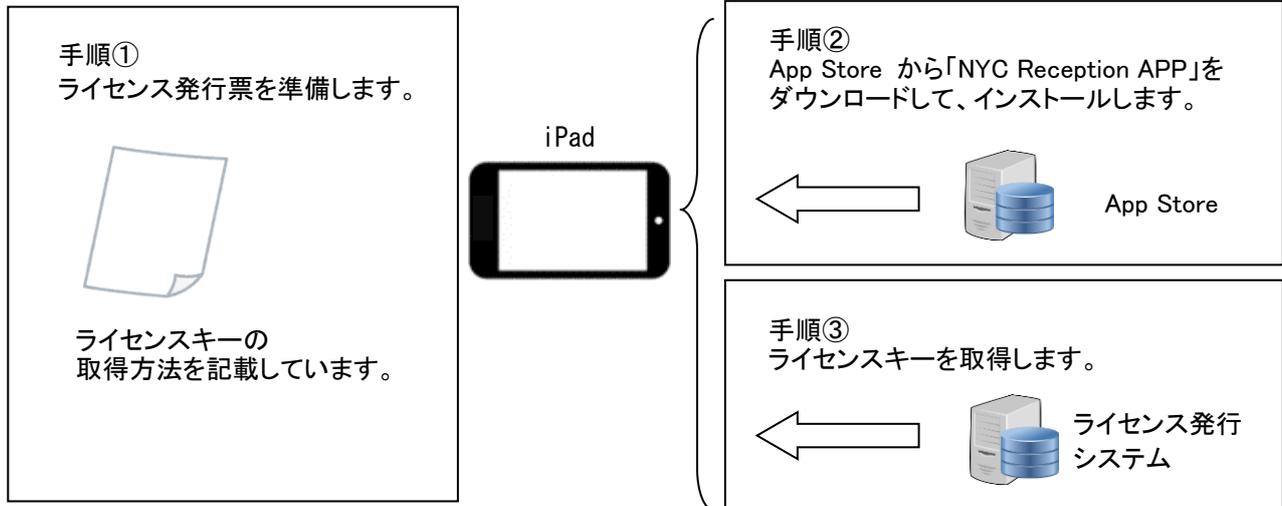
- (※1)本製品とは別売りです。本製品とは別に購入してください。
- (※2)本製品を縦置き設置するときに必要です。本製品とは別に購入してください。
- (※3)市販のものを購入してください。
- (※4)本製品は供給電流が20mA～40mAの電話機システム(主装置)に接続してください。
- (※5)ご利用ケースに応じて、必要な機器を用意してください。
- (※6)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。
- (※7)本製品を壁掛け設置するときに必要です。市販のものを購入してご使用ください。

### おしらせ

- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認いただけます。

## ● 受付アプリケーションのインストール ～iPadを使用する場合～

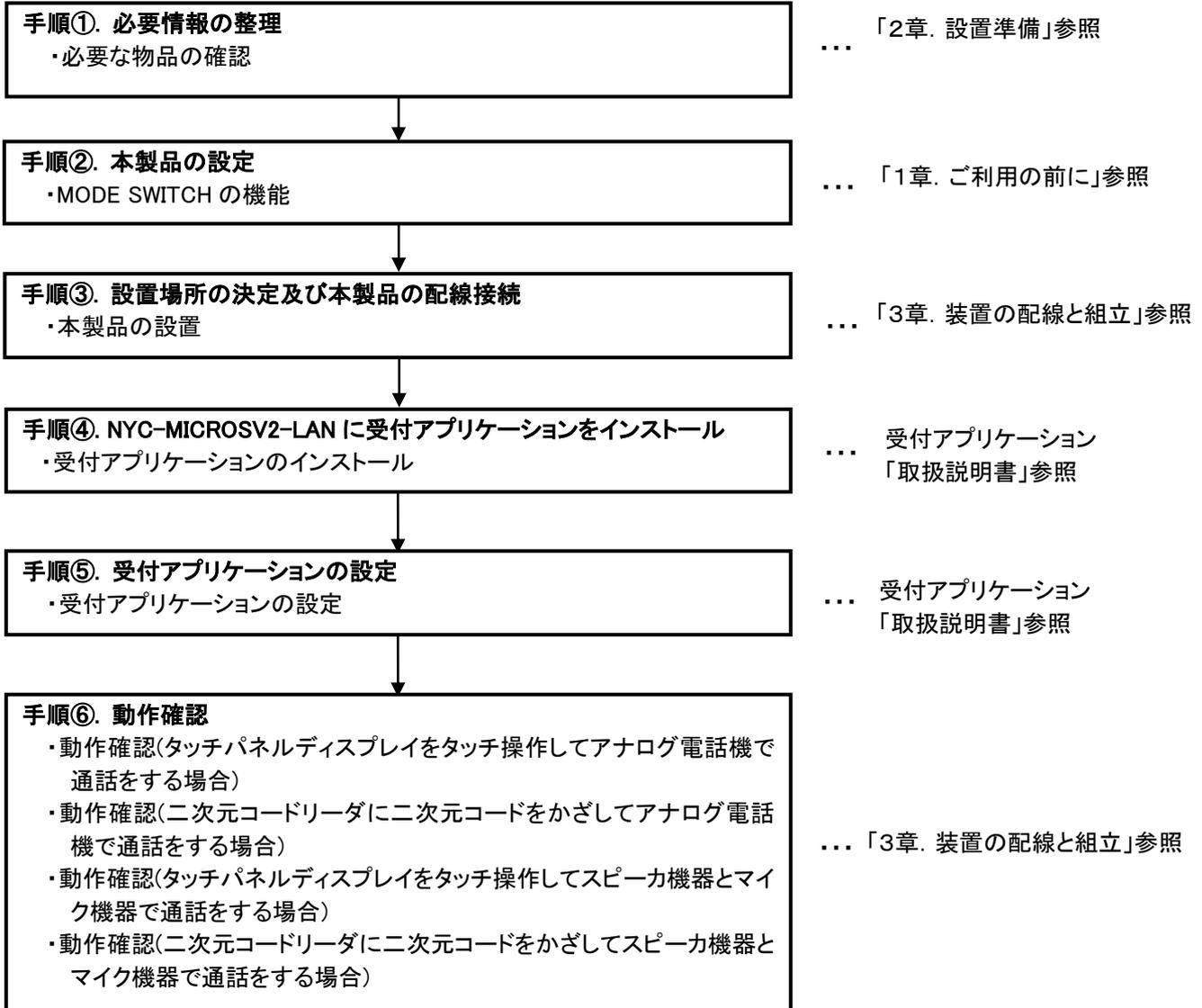
iPadに受付アプリケーションをインストールし、ライセンスキーを登録することで、受付アプリケーションを使用することができます。詳細は、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご参照ください。



## ●設置工事の手順 ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

ここでは、本製品の設置工事の手順について説明します。

下記手順を始める前に、本製品と接続する電話機システム(主装置)や内線電話機が使用可能であることを確認してください。

**おねがい**

- 本製品や本製品に接続した各機器は、エントランスなど施設の入り口付近に設置する場合、チェーンロックなどの盗難防止対策を行うことを推奨します。
- 本製品にチェーンロックを接続する場合は、セキュリティスロットをお使いください。

- 必要な物品の確認 ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～  
受付システムを構築するために必要な物品を記載します。

項目	型番	必須物品		参考
		二次元コードを使用しない場合	二次元コードを使用する場合	
本製品	NYC-STI-GW	○	○	—
NYC-MICROSV2-LAN	NYC-MICROSV2-LAN	○	○	(※1)
オプションACアダプタ	NYC-CHGADPA	—	—	(※1)(※3)
オプションスタンド	NYC-STAND-MICROSV2	—	—	(※2)
ライセンス発行票	NYC-RECEPTION-APP MS	○	○	(※1)
受付アプリケーション (NYC Reception APP MS)	—	○	○	—
主装置と単独電話インタフェース	—	○	○	(※1)(※4)
IP電話インタフェース(インターネット回線契約含む)	—	—	○	(※1)(※3)
PoE給電ハブ	—	○	○	(※3)(※5)(※6)
タッチパネルディスプレイ	—	○	○	(※3)(※5)(※6)
二次元コードリーダー	—	—	○	(※3)(※5)(※6)
USBハブ	—	—	○	(※3)(※5)(※6)
スピーカ機器とマイク機器 またはアナログ電話機	—	○	○	(※1)(※3)(※5)(※7)
ローゼット	(一例)NMJ-2	○	○	(※5)
電話機コード	(一例)TPC-DTD	○	○	(※5)
壁掛け用ねじ	—	—	—	サイズ: M3.8×25 木ねじ(丸ねじ)(※8) 数量: 2本

・数量は設置するシステムに応じてご用意ください。

- 受付アプリケーションのインストール ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

NYC-MICROSV2-LANに受付アプリケーションをインストールし、ライセンスキーを登録することで、受付アプリケーションを使用することができます。(※9)

### おねがい

- (※1)本製品とは別売りです。本製品とは別に購入してください。
- (※2)本製品を縦置き設置するときに必要です。本製品とは別に購入してください。
- (※3)ご利用ケースに応じて、必要な機器を用意してください。
- (※4)本製品は供給電流が20mA～40mAの電話機システム(主装置)に接続してください。
- (※5)市販のものを購入してください。
- (※6)「NYC-MICROSV2-LAN 接続確認物品一覧」をご参照ください。本製品のサポートサイトからご確認いただけます。
- (※7)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。
- (※8)本製品を壁掛け設置するときに必要です。市販のものを購入してご使用ください。
- (※9)アプリケーションのインストール方法は「NYC-MICROSV2-LAN 工事説明書」をご参照ください。受付アプリケーションの詳細は、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご参照ください。

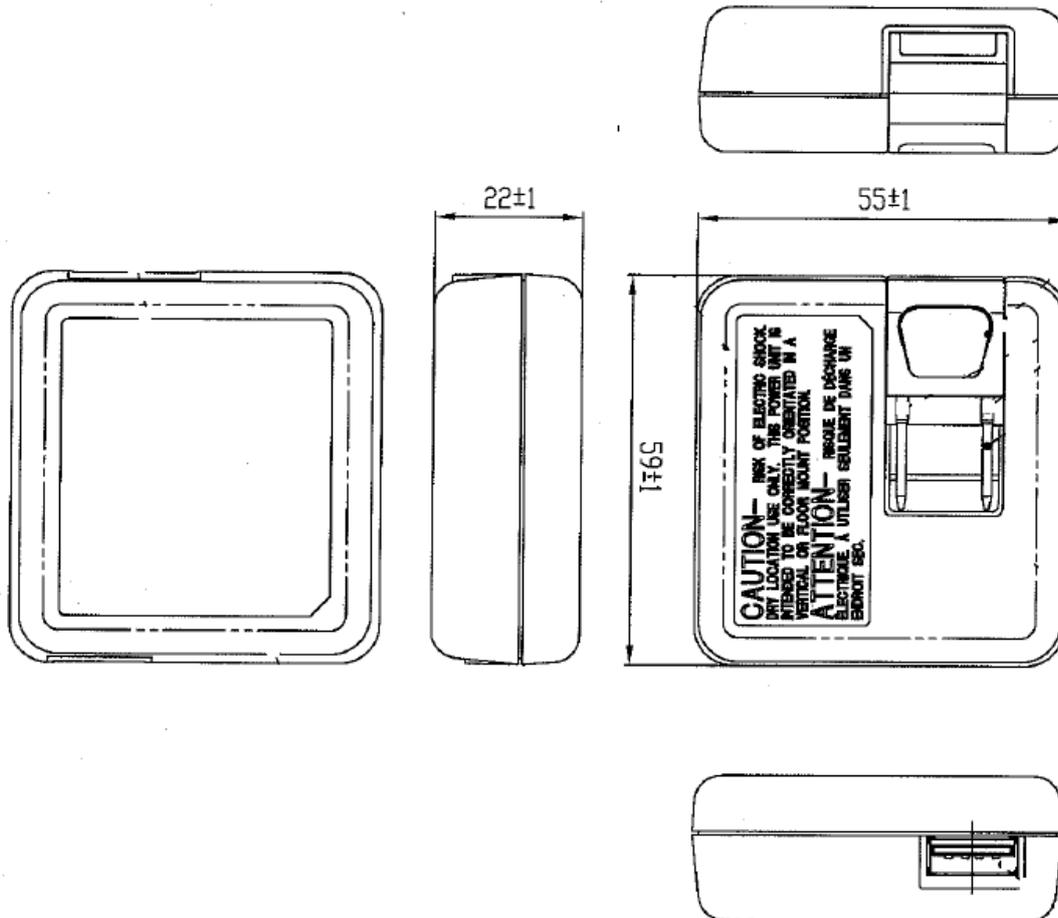
### おしらせ

- 本製品以外の機器に関する情報は、本製品のサポートサイトからご確認いただけます。

●別売品(オプション機器)  
オプションACアダプタ

名称	説明	品名	数量
オプションACアダプタ	本製品に付属のUSBケーブルを接続して給電します。(※1)	NYC-CHGADPA	1個

単位:mm

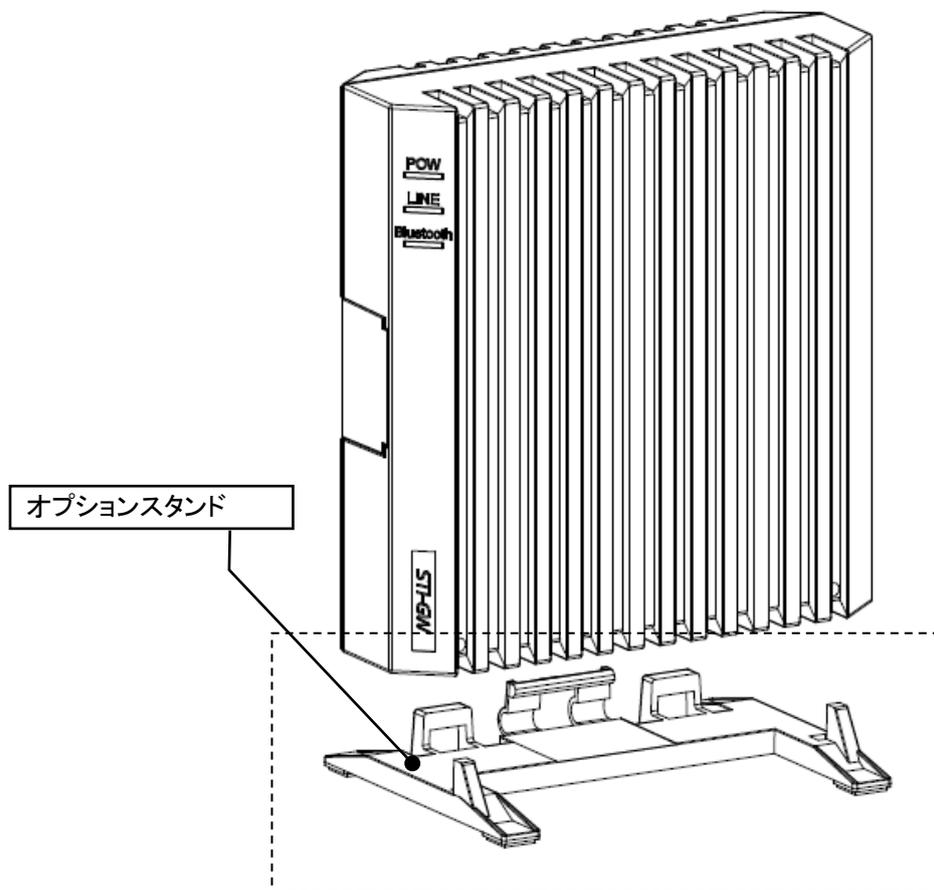
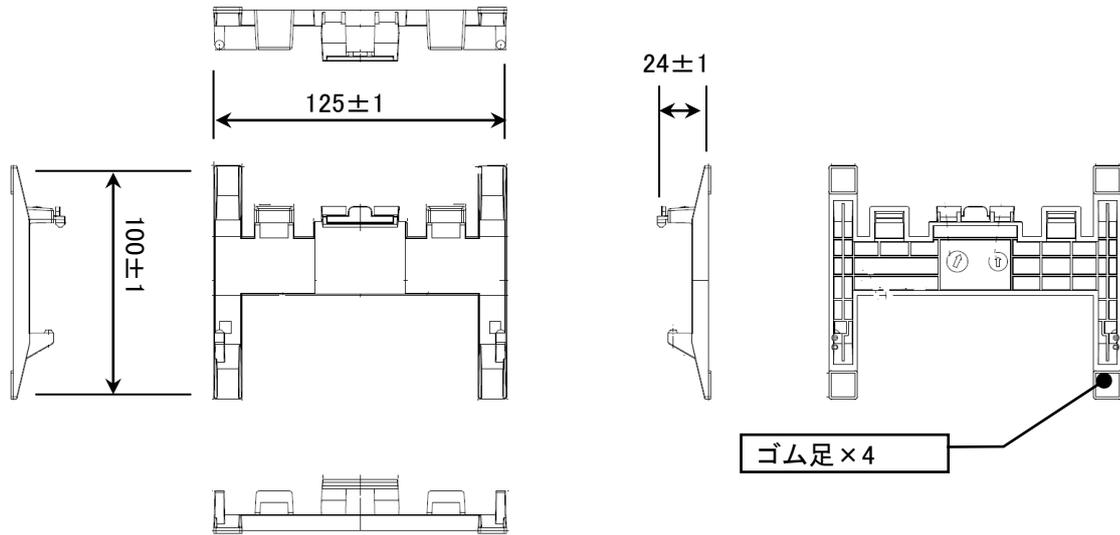


おねがい

- (※1)本製品は給電のためのACアダプタがオプションとなっており、付属はしていません。iPadをご利用の場合は、オプションACアダプタを購入してください。

## オプションスタンド

名称	説明	品名	数量
オプションスタンド	縦置き設置時に使用するスタンドです。	NYC-STAND-MICROSV2	1個



## 3章. 装置の配線と組立

## ●本製品の設置(平置き設置) ～iPadを使用する場合～

1

## ●MODE SWITCHを設定する。

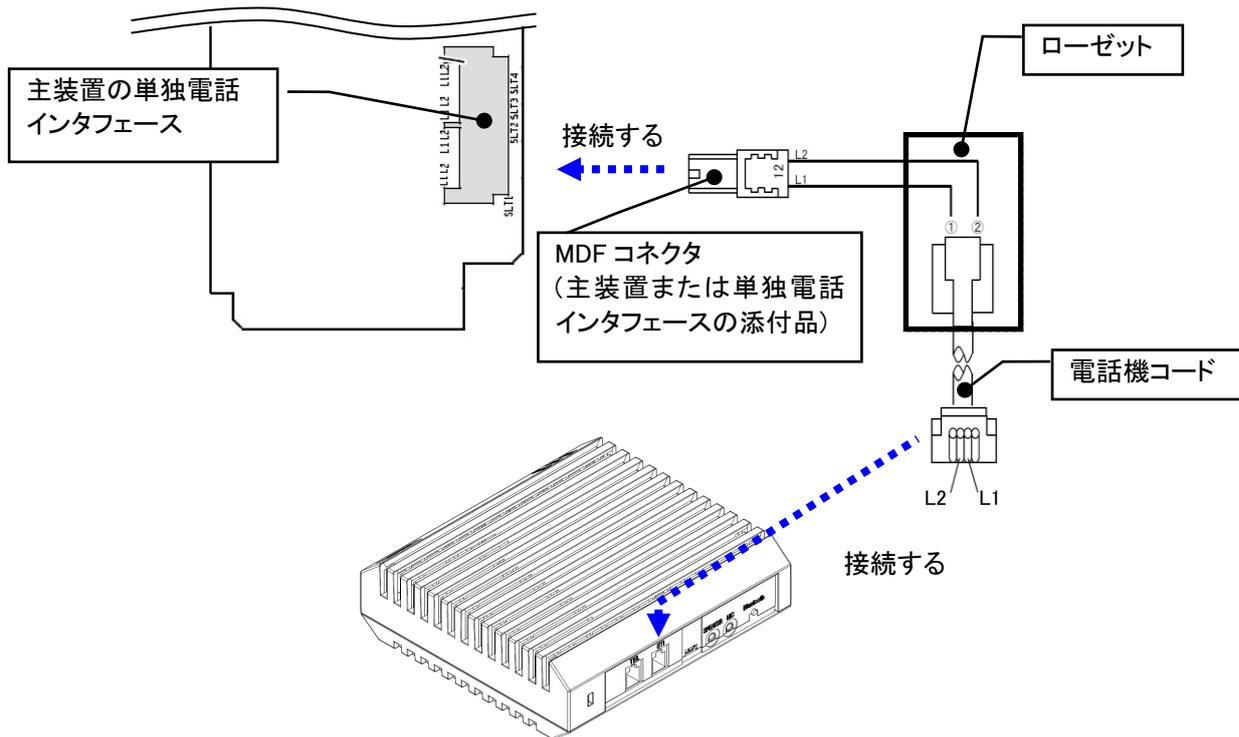
手順① MODE SWITCHの1をON(Bluetooth接続)にします。

2

## ●STIポートへのケーブルを接続する。

手順① ローゼットにケーブルなどを接続し、主装置の単独電話インターフェースに接続します。

手順② 電話機コードを本製品のSTIポートに接続します。



## ⚠ 注意

- STIポートを主装置の単独電話インターフェース以外に接続しないでください。誤った接続を行うと本製品内部のヒューズが切れて、STIポートが使用できなくなります。
- STIポートは、電気通信事業者の加入者回線に接続することはできませんので、ご注意ください。

## おねがい

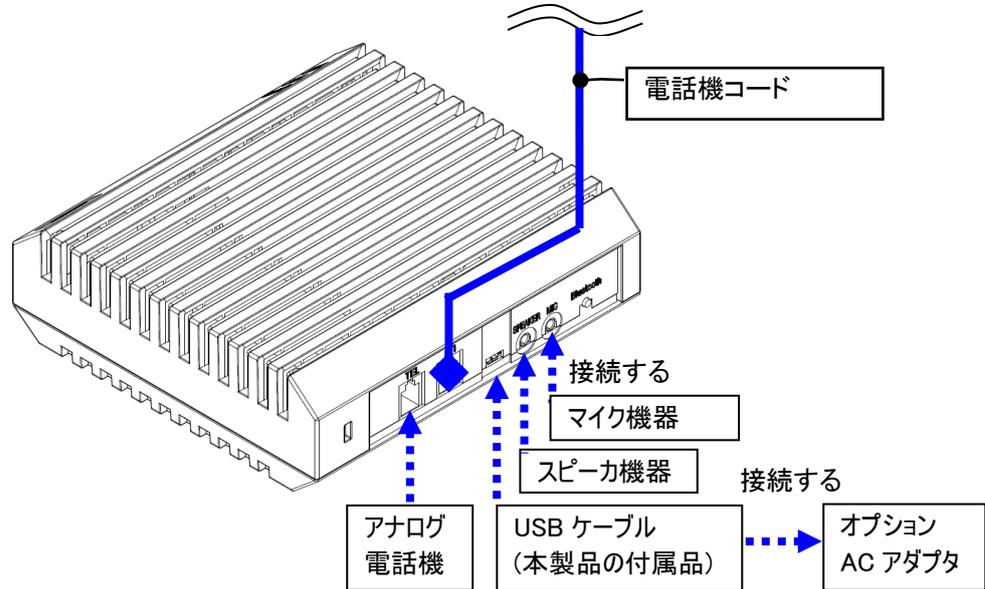
- 接続方法などの詳しい説明は、電話機システムの工事・保守マニュアルを参照してください。
- ローゼットの種類によっては配線が異なる場合がありますので、ご確認の上、接続してください。
- 本製品は供給電流が20mA～40mAの電話機システム(主装置)の単独電話インターフェースに接続してください。供給電流については電話機システム(主装置)の仕様をご確認ください。なお、弊社の単独電話インターフェース(STI)は、供給電流20mA～40mAに適合しています。
- 単独電話インターフェースは最大線路抵抗(ループ抵抗)の規定があります(500Ω以下)。本製品の直流抵抗とアナログ電話機の直流抵抗(アナログ電話機の説明書等を参照)および線路を含めて500Ω以下となるように配線してください。
  - <本製品の直流抵抗>
  - アナログ電話機を使用する場合 … 約100Ω
  - スピーカ機器、マイク機器を使用する場合 … 約300Ω
  - <最大線路抵抗の考え方>
  - アナログ電話機を使用する場合 … 本製品の直流抵抗(約100Ω) + アナログ電話機の直流抵抗(※1) + 線路抵抗
  - スピーカ機器、マイク機器を使用する場合 … 本製品の直流抵抗(約300Ω) + 線路抵抗
- (※1)アナログ電話機の直流抵抗は300Ω以下のものを接続してください。直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

## 3

## ●各種ケーブルを接続する。

手順① アナログ電話機(※1)またはスピーカ機器とマイク機器を接続します。

手順② オプションACアダプタと本製品をUSBケーブルで接続して、コンセントに差し込んで本製品を起動します。



## おねがい

- 本製品とiPadの設置距離は5m以内にすることを推奨します。
- (※1)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

## ●本製品の設置(縦置き設置) ～iPadを使用する場合～

1

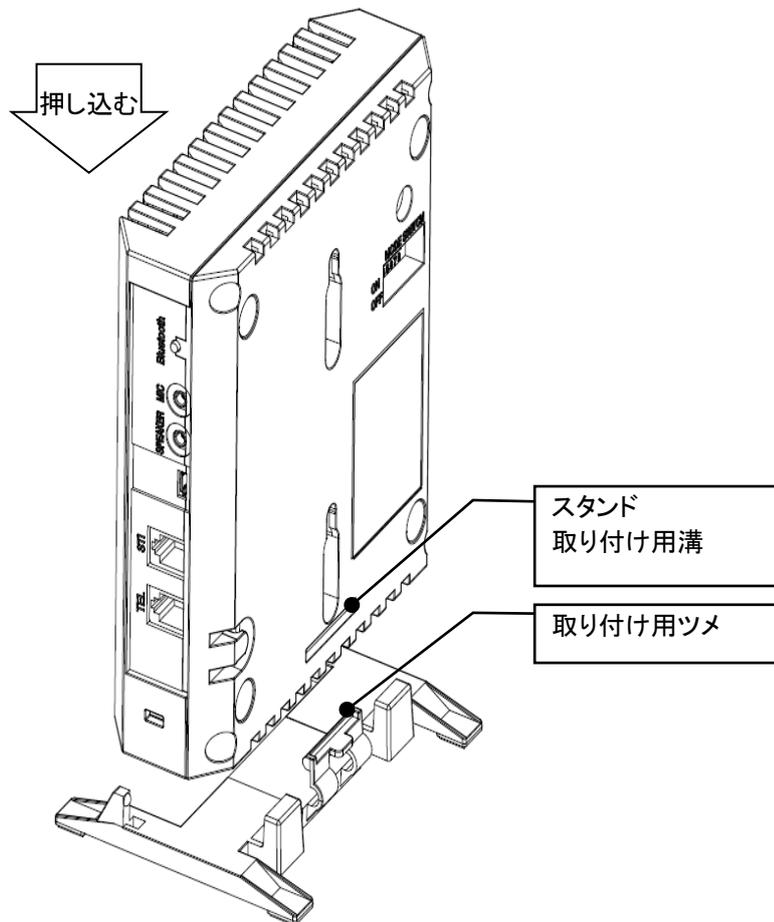
## ●MODE SWITCHを設定する。

手順① MODE SWITCHの1をON(Bluetooth接続)にします。

2

## ●スタンドを装着する。

手順① オプションスタンドの取り付け用ツメを本製品のスタンド取り付け用溝の位置に合わせて、本製品を上から押し込みます。



3

## ●各種ケーブルを接続する。

手順① 本書の「3章. ●本製品の設置(平置き設置) ～iPadを使用する場合～」を参照して各種ケーブルを接続します。

手順② オプションACアダプタと本製品をUSBケーブルで接続して、コンセントに差し込んで本製品を起動します。

## おねがい

●本製品とiPadの設置距離は5m以内にすることを推奨します。

## ●本製品の設置(壁掛け設置) ~iPadを使用する場合~

1

## ●MODE SWITCHを設定する。

手順① MODE SWITCHの1をON(Bluetooth接続)にします。

2

## ●各種ケーブルを接続して、壁に取り付ける。

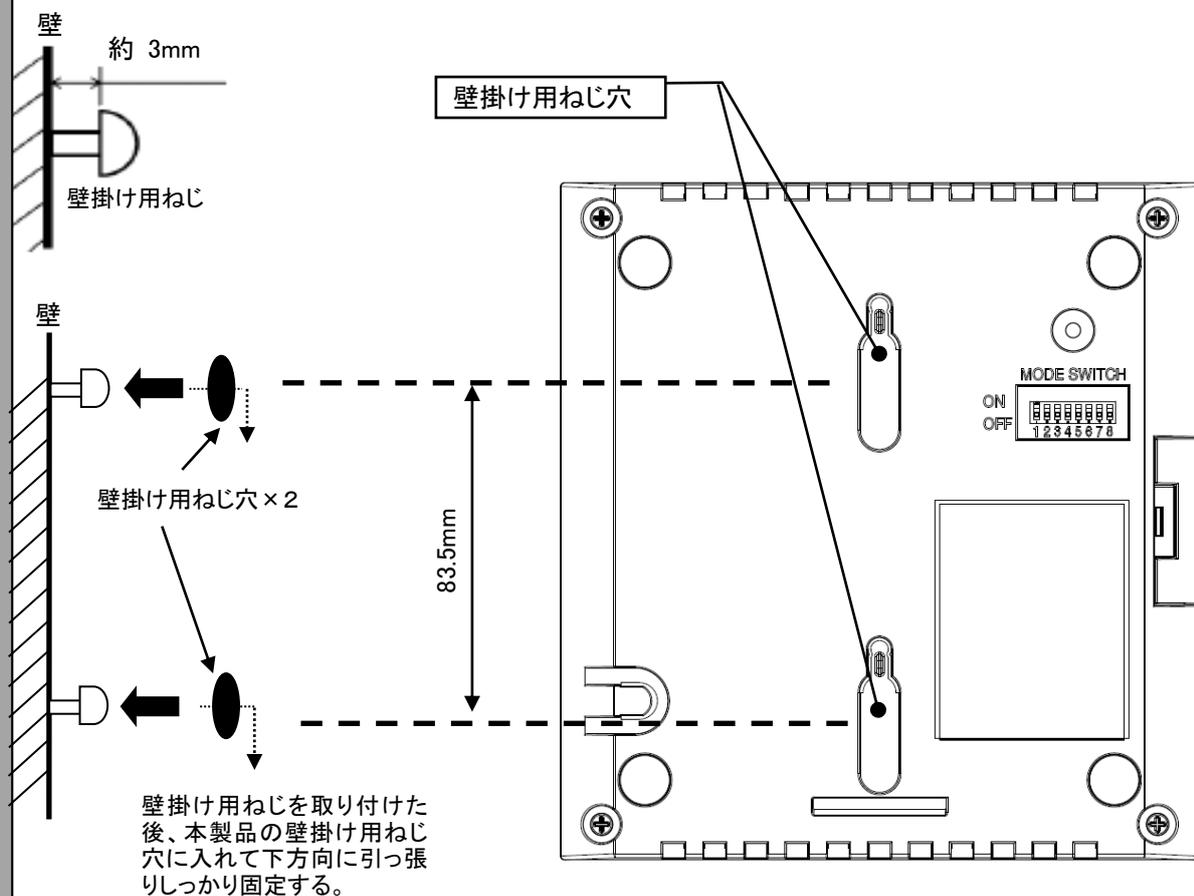
手順① 壁掛け用ねじを壁に取り付けます。

サイズM3.8×25の木ねじ(丸ねじ)2本を準備します。

ねじ頭部は、約3mm浮かせ、2本のねじを上下幅83.5mmで壁に取り付けます。

手順② 本体側面のコネクタ類に各種ケーブルを接続した後、本製品の壁掛け用ねじ穴を壁掛け用ねじの頭に引っ掛け、下方向に引っ張ります。(奥までしっかり入れ、固定します。)

手順③ オプションACアダプタにUSBケーブルを接続して、コンセントに差し込んで本製品を起動します。



## ⚠ 注意

- 本製品を壁掛け設置する場合は、本製品の重みにより落下しないよう堅固に取り付けてください。落下して、けが・破損・故障の原因となることがあります。

## 🙏 おねがい

- 金属製やコンクリート製の壁に設置しないでください。Bluetooth通信ができなくなる場合があります。
- 本製品とiPadの設置距離は5m以内にするを推奨します。

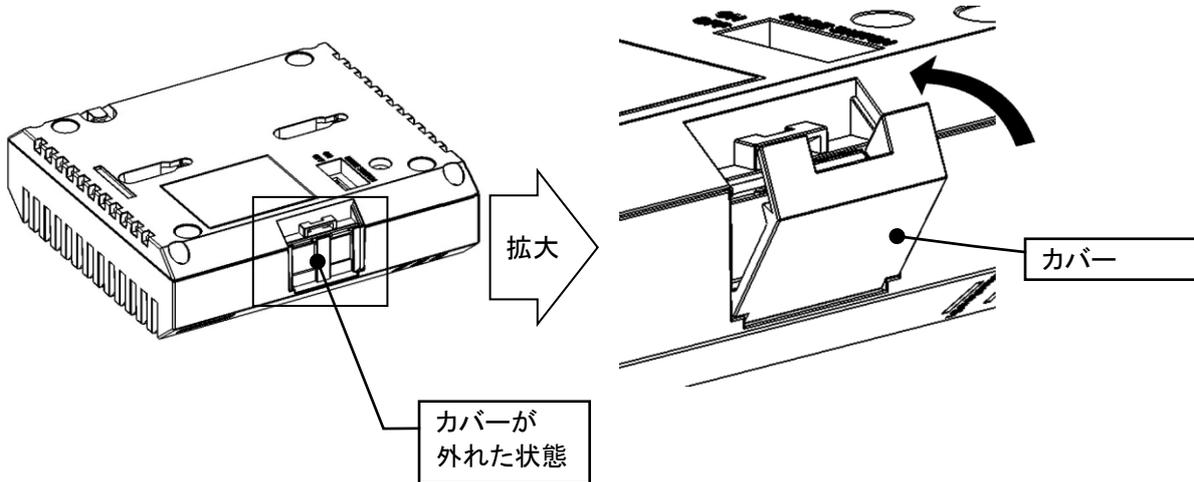
## ●本製品の設置(カバー取付方法) ～iPadを使用する場合～

7

## ●カバーが外れた場合は、カバーを取り付ける。

手順① 本製品を落下させてしまった際などに、カバーが外れる場合があります。

外れたカバーの取付方法は、カバーを筐体に斜めに差し込み、「カチッ」と音が鳴るまで戻します。



## おねがい

●本製品はカバーを外して使用する機能はありませんので、外さないでください。

## ●Bluetooth接続について ～iPadを使用する場合～

## 7

## ●Bluetooth機能を有効にする。

本製品のMODE SWITCHの1をON(Bluetooth接続)にして電源を入れます。

## ●Bluetoothペアリング(登録)する。

Bluetoothペアリング(登録)するためには、本製品をペアリングモードにして、接続する機器とペアリング操作する必要があります。

接続する機器の操作方法については、機器のマニュアル等をご確認ください。

## 【Bluetoothペアリング 操作手順】

手順① 本製品の電源を入れます。

手順② 本製品のBluetoothボタンを長押し(2秒以上)し、本製品をペアリングモードにします。

(Bluetoothランプ:点滅)

手順③ お使いの接続機器のBluetooth機能で本製品のデバイス名(※)を検索表示して接続します。  
※本製品のデバイス名は「STI-GW」です。

手順④ ペアリングが完了すると、接続する機器と接続されます。

(Bluetoothランプ:周期的に2回点滅)

## ●Bluetooth接続する。

ペアリング操作は、最初の1回のみ行います。

ペアリング(登録)後の接続はお使いの機器で接続操作を行ってください。

## 【Bluetooth接続 操作手順】

手順① 本製品の電源を入れます。

手順② お使いの接続機器のBluetooth機能で本製品のデバイス名を検索表示して接続します。

(Bluetoothランプ:周期的に2回点滅)

## ●Bluetooth切断する。

Bluetoothの切断については、接続機器から切断操作をするか、本製品の電源をOFFしてください。

お使いの接続機器の操作方法については、機器のマニュアル等をご確認ください。

## 【Bluetooth切断 操作手順】

手順① お使いの接続機器のBluetooth機能で本製品のデバイス名を表示して切断操作をします。

(Bluetoothランプ:遅い点滅)

## おねがい

- 本製品は接続された機器から見通しで約10m(一般使用で約5m)以上離れると圏外となります。

(Bluetoothランプは遅い点滅になります。)

- お使いの接続機器からBluetoothペアリングや接続できない場合、圏外から復帰しても再接続できない場合などは、お使いの接続機器のBluetooth機能で本製品の登録を削除して、再度ペアリング操作や接続操作を行ってください。
- 停電が発生した後は、自動的にBluetooth接続しない場合があります。復電後、Bluetooth接続しているか確認してください。

## お知らせ

- Bluetoothペアリング(登録)をすると、本製品に内蔵の無線モジュールにペアリング情報が保存されますが、本製品のMODE SWITCHによる初期化では、ペアリング情報は初期化されません。Bluetoothボタン長押しで本製品のペアリング情報を削除することができます。(接続する機器での操作は不要です。)

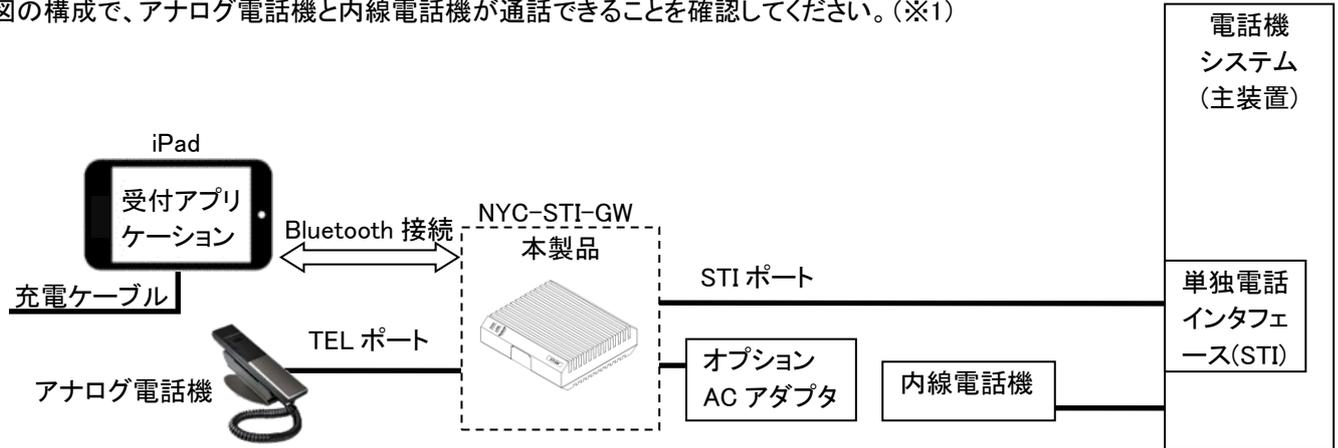
### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(iPadの画面をタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合)

#### ●動作確認(iPadの画面をタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合)

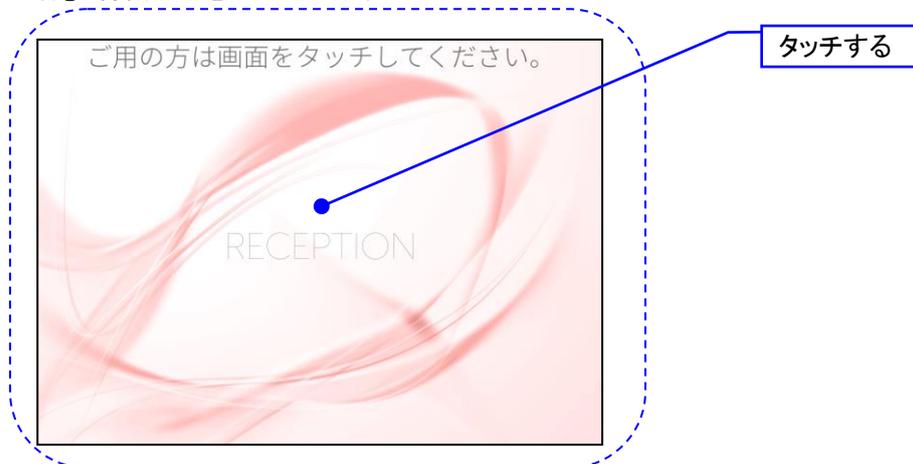
下図の構成で、アナログ電話機と内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



## 7

### ●受付アプリケーションで発信操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 作成した任意のボタン(※2)をタッチします。



### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたiPadをBluetooth接続する必要があります。詳細については、本書の「3章. ●Bluetooth接続について」を参照してください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+単独電話機」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ● 受付側アナログ電話機と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認して、アナログ電話機のハンドセット(受話器)をとります。  
アナログ電話機のハンドセット(受話器)から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。  
また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセット(受話器)をとります。



手順② 音声通話が良好であることを確認し、内線電話機およびアナログ電話機のハンドセット(受話器)を置いて終話します。



## おねがい

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング」を参照してください。

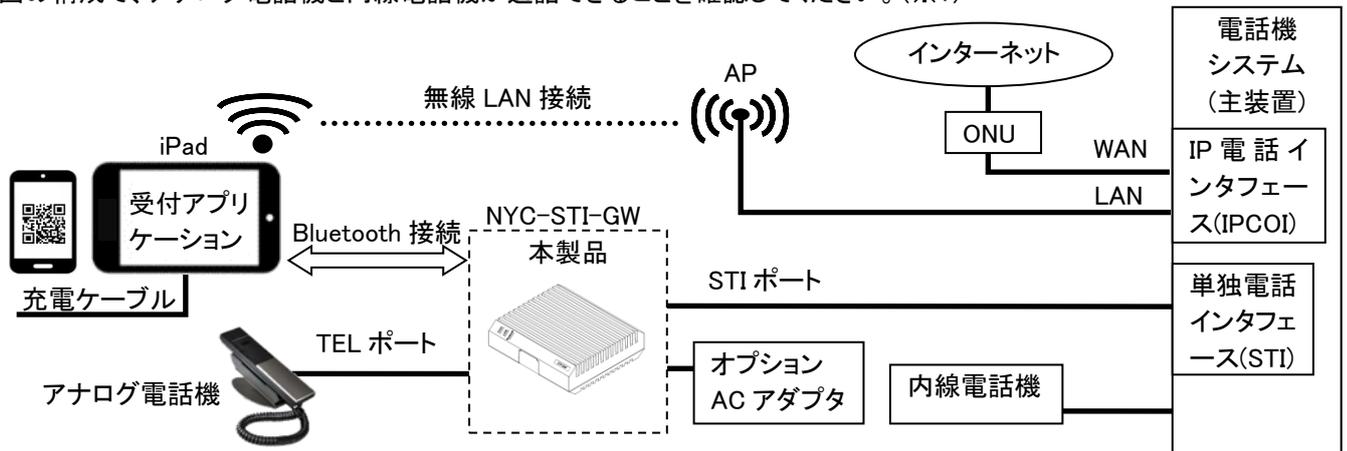
### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(iPad のカメラに二次元コードをかざしてアナログ電話機で通話をする場合)

#### ●動作確認(iPadのカメラに二次元コードをかざしてアナログ電話機で通話をする場合)

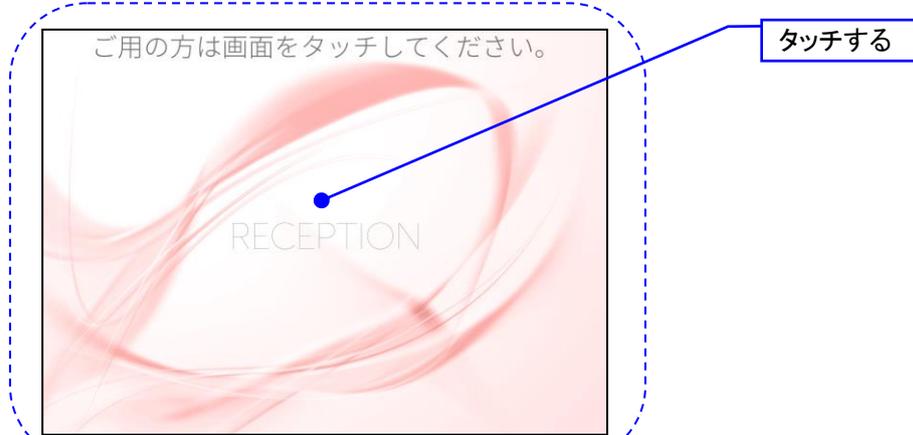
下図の構成で、アナログ電話機と内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



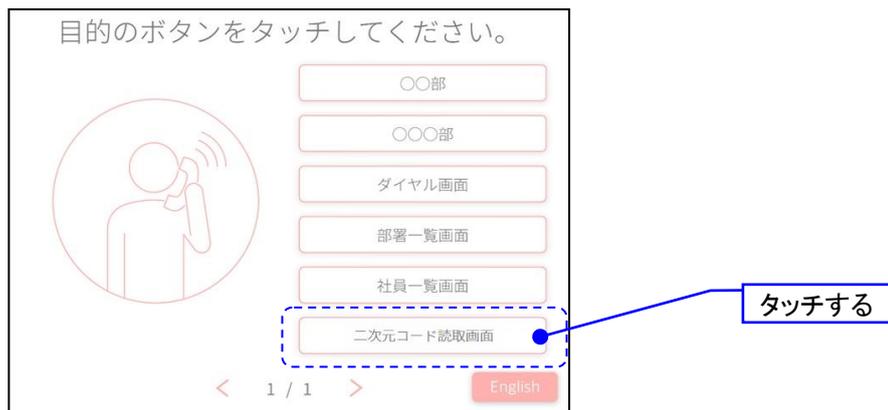
## 7

#### ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 二次元コード読取画面ボタン(※2)をタッチします。



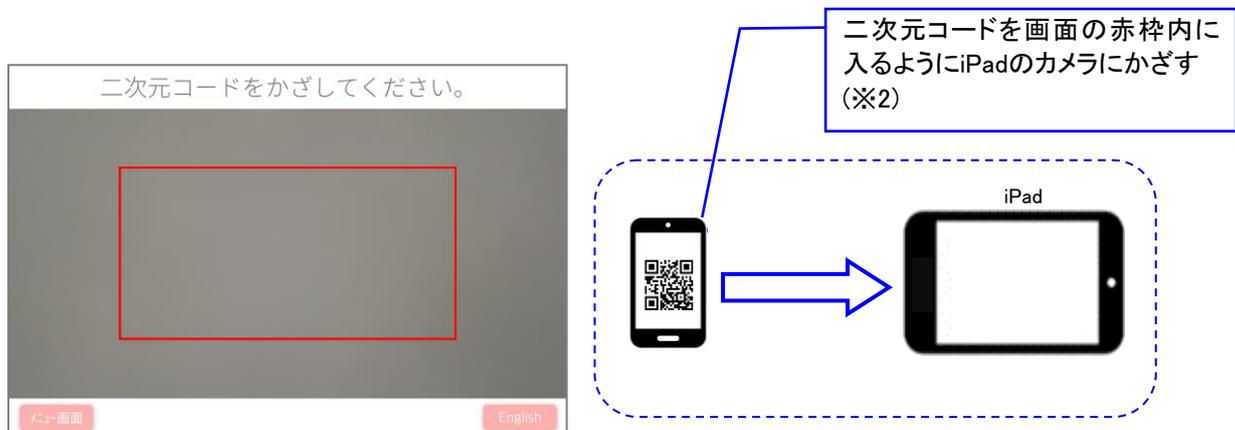
#### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたiPadをBluetooth接続する必要があります。詳細については、本書の「3章. ●Bluetooth接続について」を参照してください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+単独電話機」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。

## 7

## ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順③ 画面が切り替わりiPadのカメラが起動するので、事前に発行した二次元コードをかざします。  
二次元コードの読み取りが終わると、自動で照合を開始します。(※1)



## おねがい

- (※1)二次元コード発行時の設定により、照合完了後の画面が多少異なる場合があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、あらかじめ二次元コードを発行しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ● 受付側アナログ電話機と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認して、アナログ電話機のハンドセット(受話器)をとります。  
アナログ電話機のハンドセット(受話器)から呼出音(トウルルルル)が聴取できることを確認します。  
また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセット(受話器)をとります。



手順② 音声通話が良好であることを確認し、内線電話機およびアナログ電話機のハンドセット(受話器)を置いて終話します。



## おねがい

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング」を参照してください。

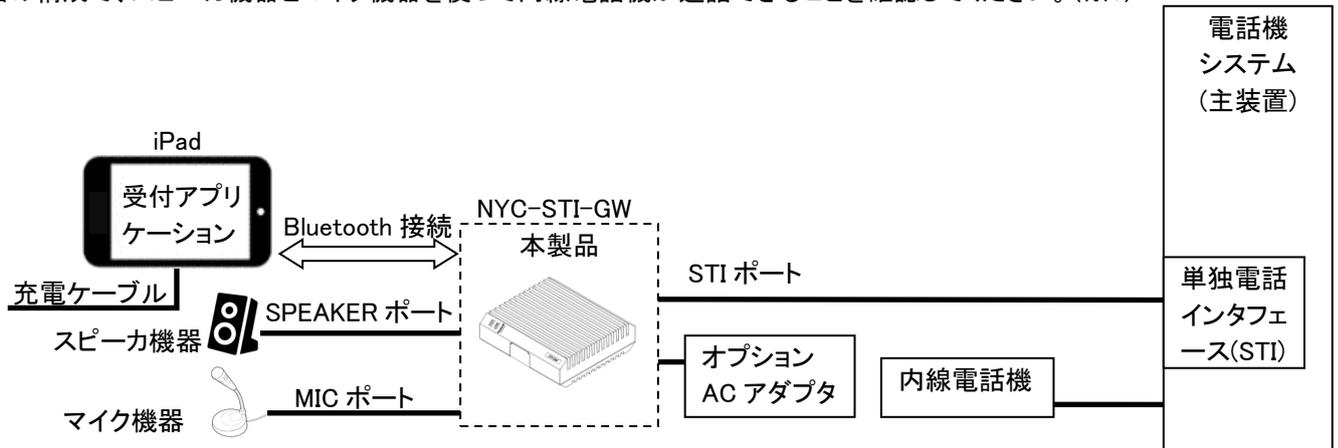
### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(iPadの画面をタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

#### ●動作確認(iPadの画面をタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

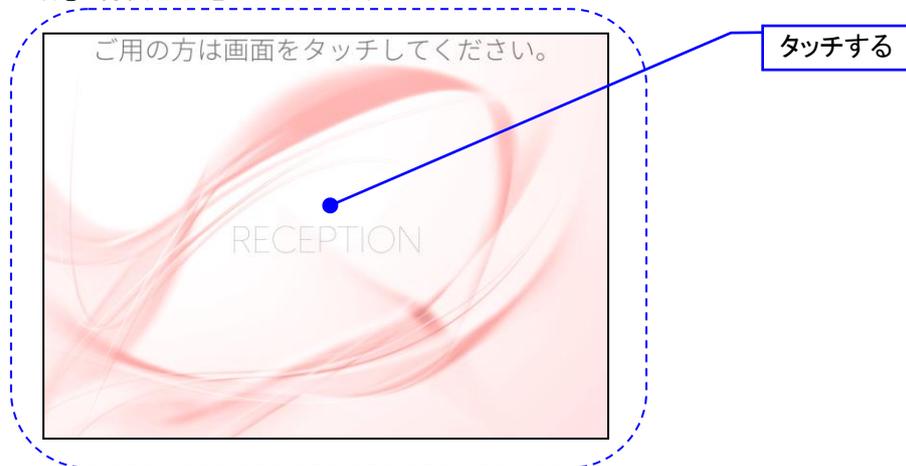
下図の構成で、スピーカ機器とマイク機器を使って内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



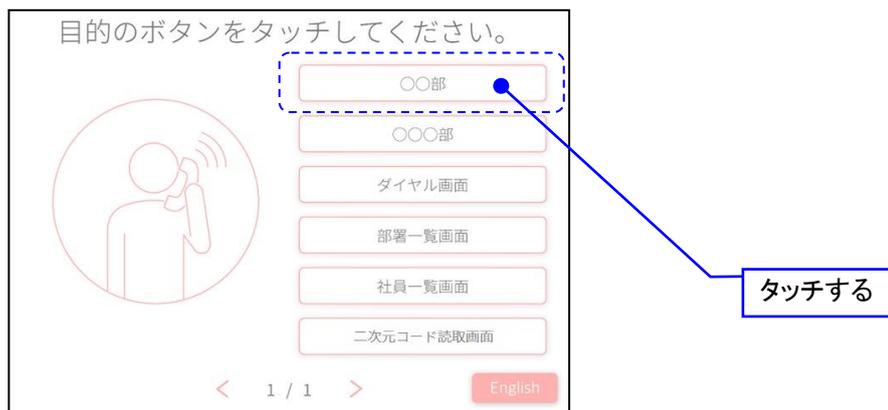
## 1

### ●受付アプリケーションで発信操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 作成した任意のボタン(※2)をタッチします。



### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたiPadをBluetooth接続する必要があります。詳細については、本書の「3章. ●Bluetooth接続について」を参照してください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+マイク・スピーカ」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ●受付側スピーカ機器・マイク機器と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認します。

スピーカ機器から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。

また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセットをとります。



手順② マイク機器に音声を入れ、音声通話が良好であることを確認し、内線電話機のハンドセットを置いて終話します。

スピーカ機器



マイク機器



音声通話が良好である  
ことを確認します。



## おねがい

- 本製品にスピーカ機器、マイク機器を接続してハンズフリー通話をする構成の場合は、以下の点に注意してください。
  - ・マイク機器の近くには、ものなどを置かないでください。
  - ・マイク機器でお話する人(例: 来訪者)の口からマイク機器までの距離が約50cm(目安)程度となるようにマイク機器を設置してください。
  - ・スピーカ機器からの戻り音声が気になる場合は、スピーカ機器の音量を下げて利用してください。
  - ・スピーカ機器、マイク機器の近くに手や顔を近づけないでください。「ピー」と鳴り、ハウリングすることがあります。

## おしらせ

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング」を参照してください。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、着信応答することはできません。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、通話相手が終話すると、本製品は自動的に終話します。

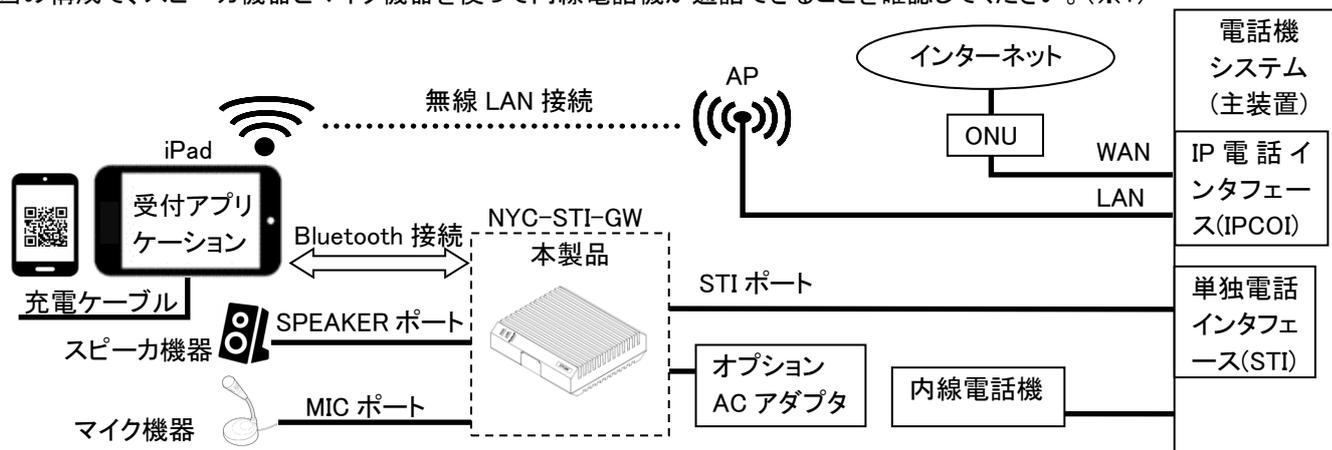
### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(iPad のカメラに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

#### ●動作確認(iPadのカメラに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

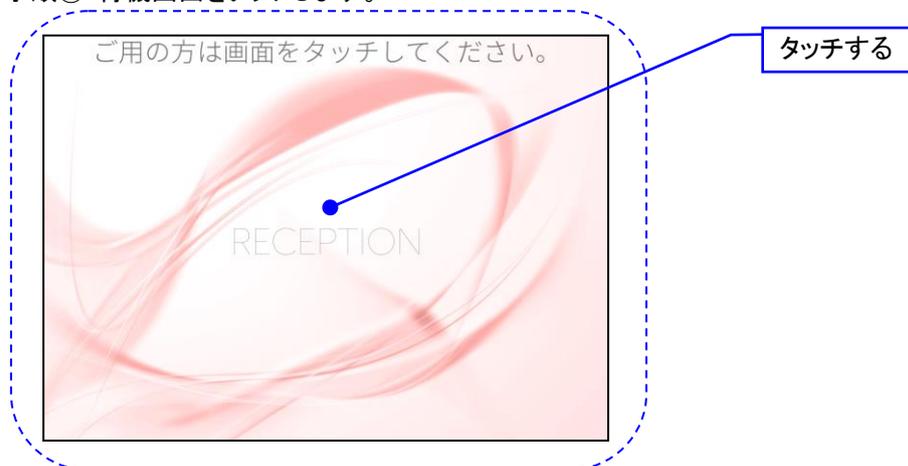
下図の構成で、スピーカ機器とマイク機器を使って内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



## 7

### ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 二次元コード読取画面ボタン(※2)をタッチします。



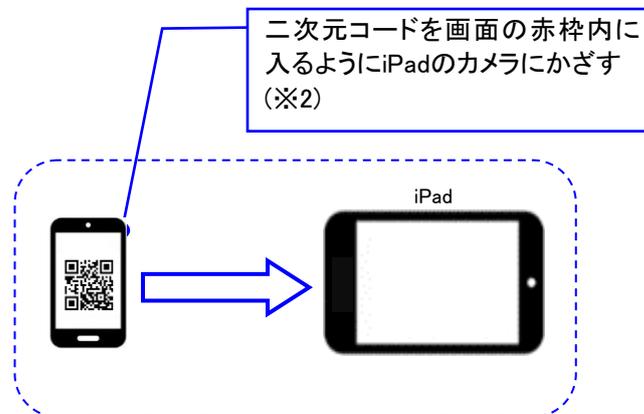
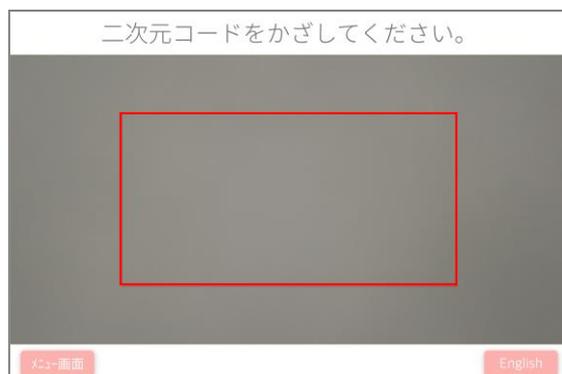
### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたiPadをBluetooth接続する必要があります。詳細については、本書の「3章. ●Bluetooth接続について」を参照してください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+マイク・スピーカ」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP 取扱説明書」をご確認ください。

7

## ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順③ 画面が切り替わりiPadのカメラが起動するので、事前に発行した二次元コードをかざします。  
二次元コードの読み取りが終わると、自動で照合を開始します。(※1)



## おねがい

- (※1)二次元コード発行時の設定により、照合完了後の画面が多少異なる場合があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、あらかじめ二次元コードを発行しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ●受付側スピーカ機器・マイク機器と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認します。

スピーカ機器から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。

また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセットをとります。



手順② マイク機器に音声を入れ、音声通話が良好であることを確認し、内線電話機のハンドセットを置いて終話します。

スピーカ機器



マイク機器



音声通話が良好であることを確認します。



## おねがい

- 本製品にスピーカ機器、マイク機器を接続してハンズフリー通話をする構成の場合は、以下の点に注意してください。
  - ・マイク機器の近くには、ものなどを置かないでください。
  - ・マイク機器でお話する人(例: 来訪者)の口からマイク機器までの距離が約50cm(目安)程度となるようにマイク機器を設置してください。
  - ・スピーカ機器からの戻り音声が気になる場合は、スピーカ機器の音量を下げてください。
  - ・スピーカ機器、マイク機器の近くに手や顔を近づけないでください。「ピー」と鳴り、ハウリングすることがあります。

## おしらせ

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング」を参照してください。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、着信応答することはできません。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、通話相手が終話すると、本製品は自動的に終話します。

## ●本製品の設置(平置き設置) ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

1

## ●MODE SWITCHを設定する。

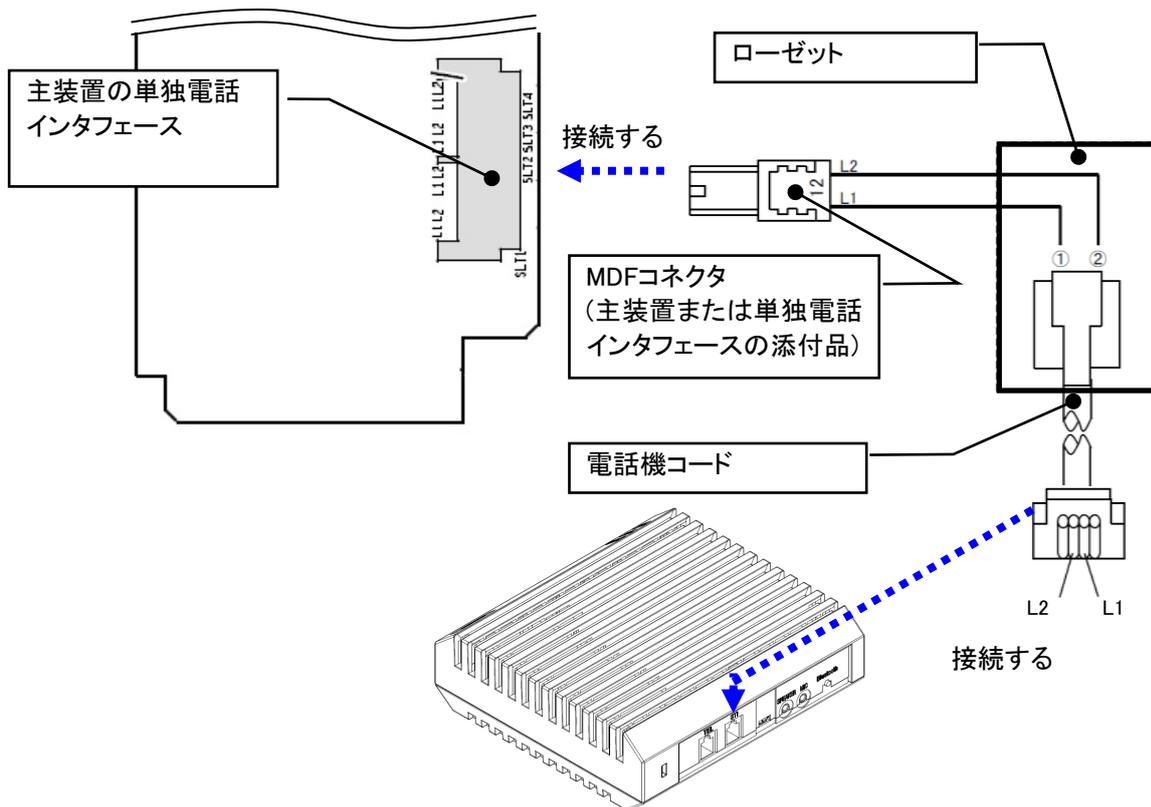
手順① MODE SWITCHの1がOFF(USB接続)であることを確認します。

2

## ●STIポートへのケーブルを接続する。

手順① ローゼットにケーブルなどを接続し、主装置の単独電話インタフェースに接続します。

手順② 電話機コードを本製品のSTIポートに接続します。



## ⚠ 注意

- STIポートを主装置の単独電話インタフェース以外に接続しないでください。誤った接続を行うと本製品内部のヒューズが切れて、STIポートが使用できなくなります。
- STIポートは、電気通信事業者の加入者回線に接続することはできませんので、ご注意ください。

## おねがい

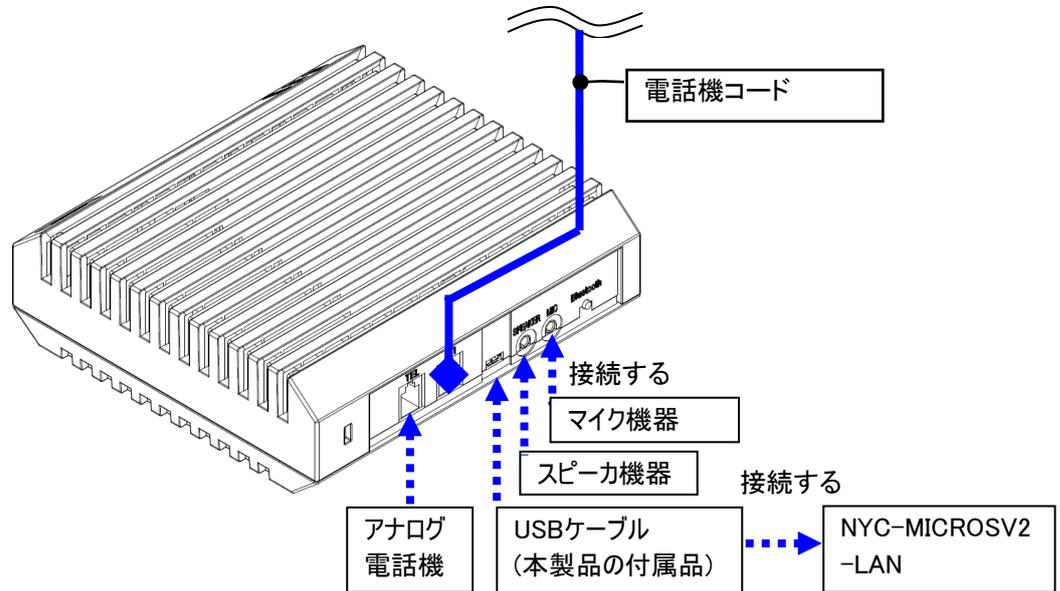
- 接続方法などの詳しい説明は、電話機システムの工事・保守マニュアルを参照してください。
- ローゼットの種類によっては配線が異なる場合がありますので、ご確認の上、接続してください。
- 本製品は供給電流が20mA～40mAの電話機システム(主装置)の単独電話インタフェースに接続してください。供給電流については電話機システム(主装置)の仕様をご確認ください。なお、弊社の単独電話インタフェース(STI)は、供給電流20mA～40mAに適合しています。
- 単独電話インタフェースは最大線路抵抗(ループ抵抗)の規定があります(500Ω以下)。本製品の直流抵抗とアナログ電話機の直流抵抗(アナログ電話機の説明書等を参照)および線路を含めて500Ω以下となるように配線してください。  
 <本製品の直流抵抗>  
 アナログ電話機を使用する場合 … 約100Ω  
 スピーカ機器、マイク機器を使用する場合 … 約300Ω  
 <最大線路抵抗の考え方>  
 アナログ電話機を使用する場合 … 本製品の直流抵抗(約100Ω) + アナログ電話機の直流抵抗(※1) + 線路抵抗  
 スピーカ機器、マイク機器を使用する場合 … 本製品の直流抵抗(約300Ω) + 線路抵抗
- (※1)アナログ電話機の直流抵抗は300Ω以下のものを接続してください。直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

## 3

## ●各種ケーブルを接続する。

手順① アナログ電話機(※1)またはスピーカ機器とマイク機器を接続します。

手順② NYC-MICROSV2-LANと本製品をUSBケーブルで接続して本製品を起動します。



## おねがい

- (※1)直流抵抗が300Ωを超えるアナログ電話機をご利用される場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へご相談ください。

## ●本製品の設置(縦置き設置) ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

1

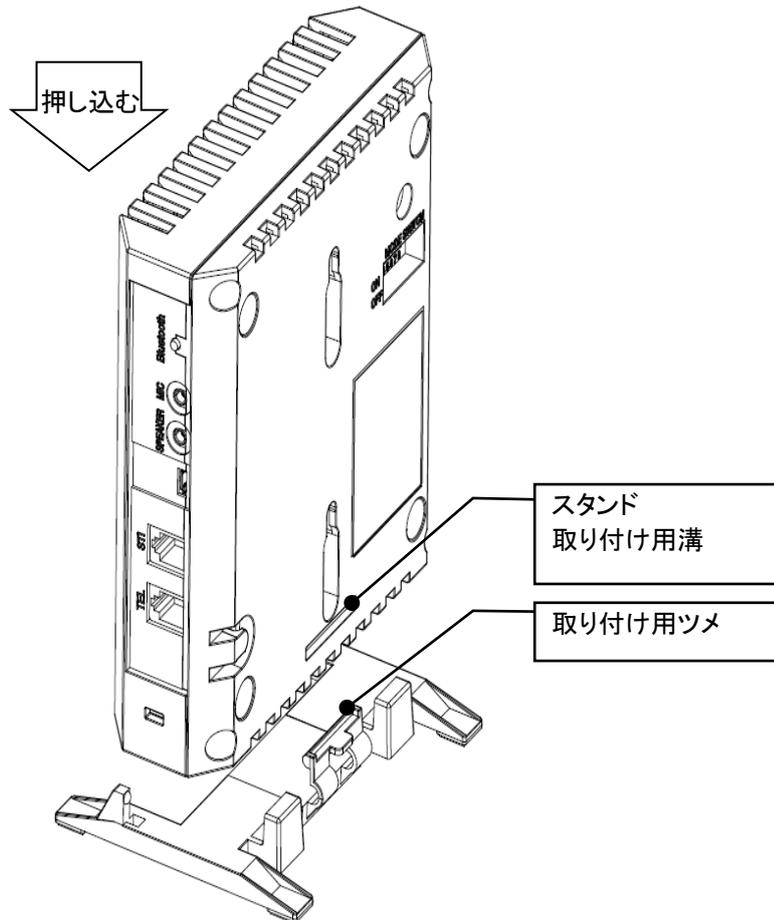
## ●MODE SWITCHを設定する。

手順① MODE SWITCHの1がOFF(USB接続)であることを確認します。

2

## ●スタンドを装着する。

手順① オプションスタンドの取り付け用ツメを本製品のスタンド取り付け用溝の位置に合わせて、本製品を上から押し込みます。



3

## ●各種ケーブルを接続する。

手順① 本書の「●本製品の設置(平置き設置) ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～」を参照して各種ケーブルを接続します。

手順② NYC-MICROSV2-LANと本製品をUSBケーブルで接続して本製品を起動します。

## ●本製品の設置(壁掛け設置) ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

1

## ●MODE SWITCHを設定する。

手順① MODE SWITCHの1がOFF(USB接続)であることを確認します。

2

## ●各種ケーブルを接続して、壁に取り付ける。

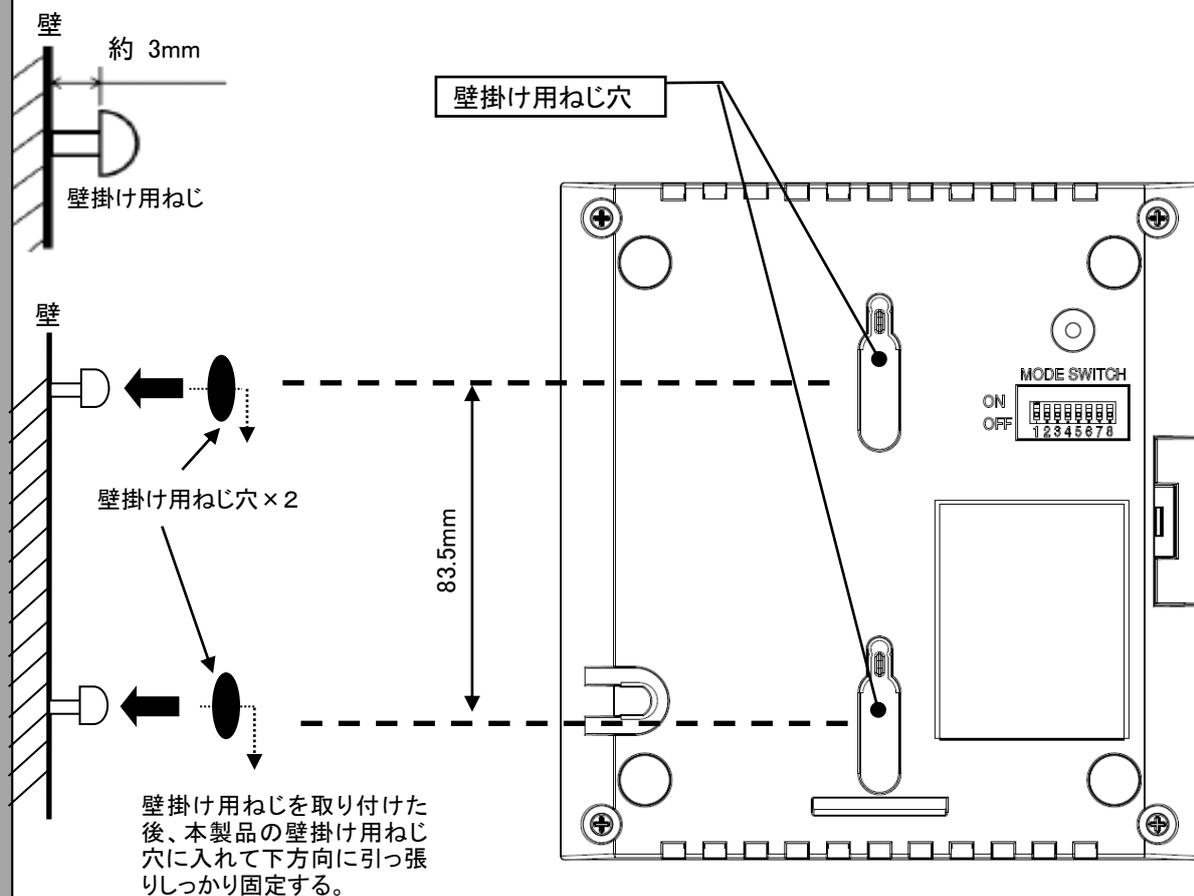
手順① 壁掛け用ねじを壁に取り付けます。

サイズM3.8×25の木ねじ(丸ねじ)2本を準備します。

ねじ頭部は、約3mm浮かせ、2本のねじを上下幅83.5mmで壁に取り付けます。

手順② 本体側面のコネクタ類に各種ケーブルを接続した後、本製品の壁掛け用ねじ穴を壁掛け用ねじの頭に引っ掛け、下方方向に引っ張ります。(奥までしっかり入れ、固定します。)

手順③ NYC-MICROSV2-LANと本製品をUSBケーブルで接続して本製品を起動します。



## ⚠ 注意

- 本製品を壁掛け設置する場合は、本製品の重みにより落下しないよう堅固に取り付けてください。落下して、けが・破損・故障の原因となることがあります。

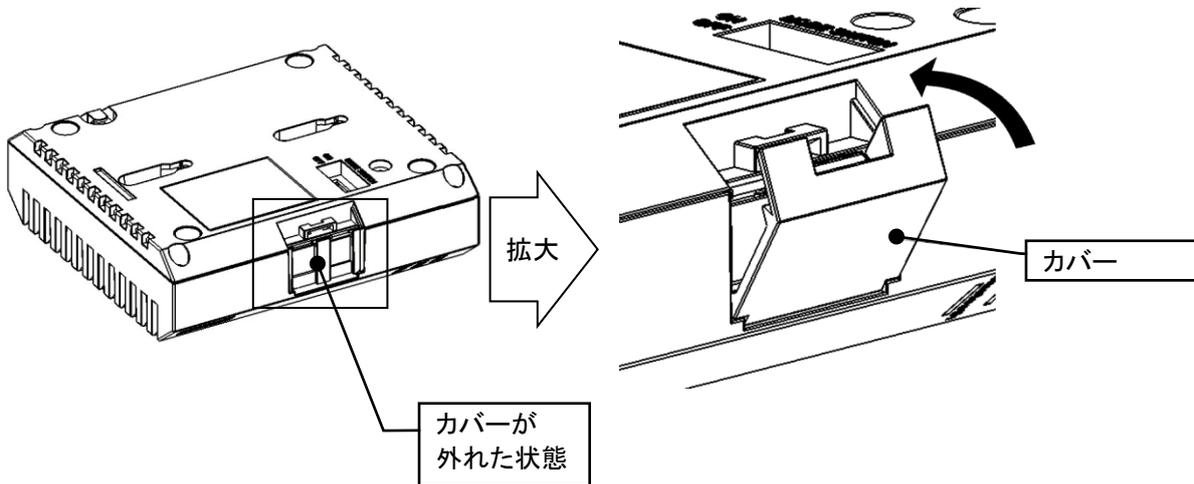
## ●本製品の設置(カバー取付方法) ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

7

## ●カバーが外れた場合は、カバーを取り付ける。

手順① 本製品を落下させてしまった際などに、カバーが外れる場合があります。

外れたカバーの取付方法は、カバーを筐体に斜めに差し込み、「カチッ」と音が鳴るまで戻します。



## おねがい

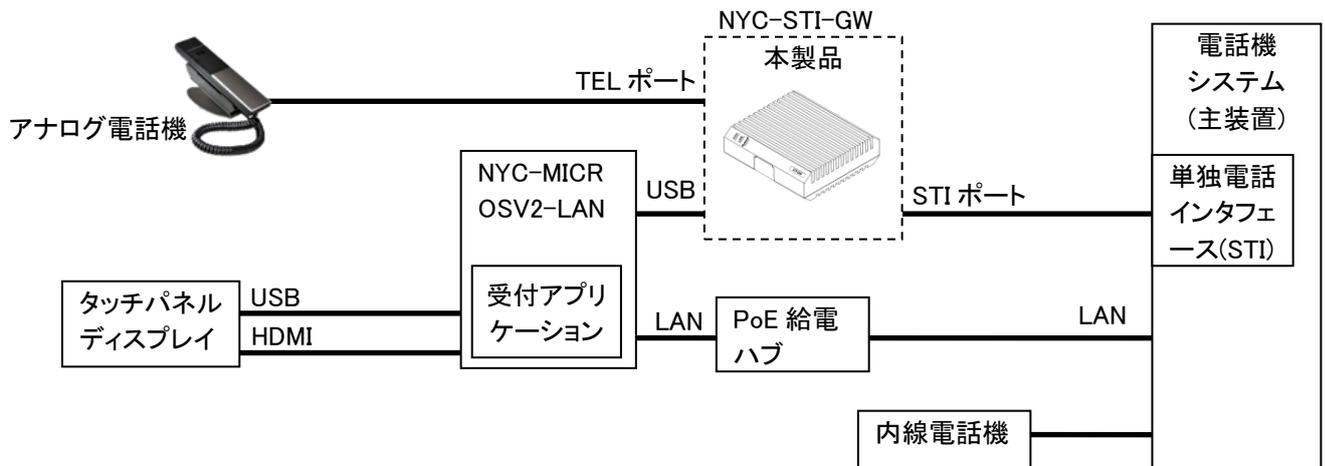
●本製品はカバーを外して使用する機能はありませんので、外さないでください。

### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合)

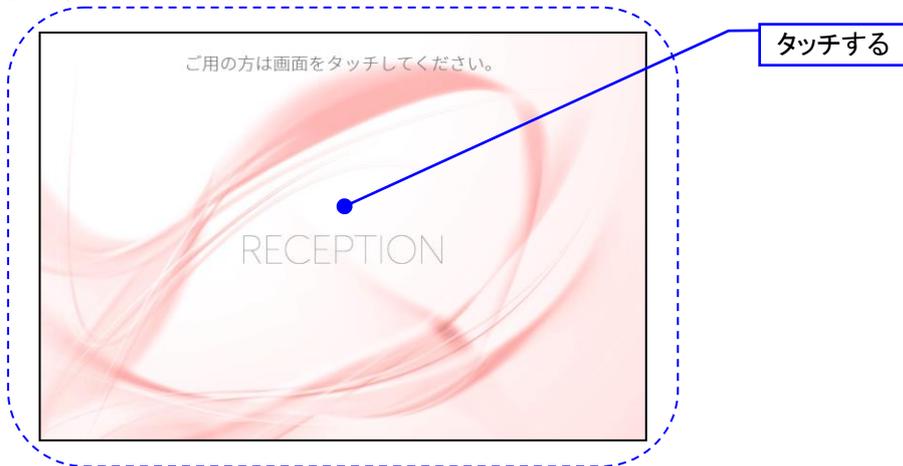
- 動作確認(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してアナログ電話機で通話をする場合)  
下図の構成で、アナログ電話機と内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



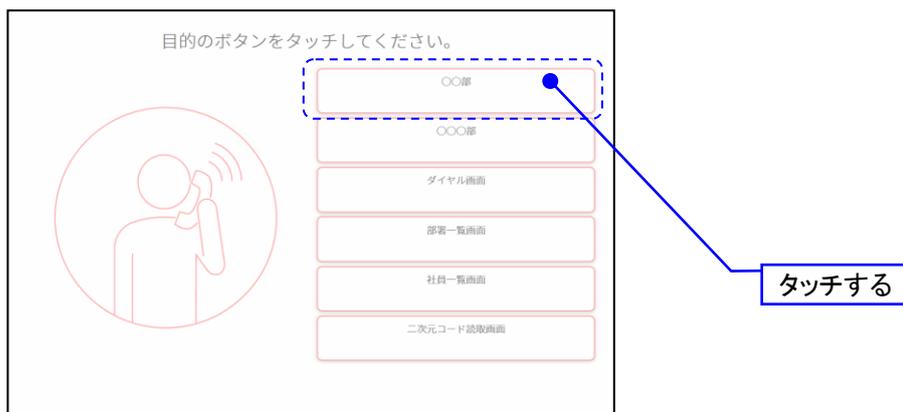
## 1

### ●受付アプリケーションで発信操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 作成した任意のボタン(※2)をタッチします。



### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたNYC-MICROSV2-LANをUSB接続する必要があります。詳細については、NYC-MICROSV2-LANの「工事説明書」をご確認ください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+単独電話機」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。

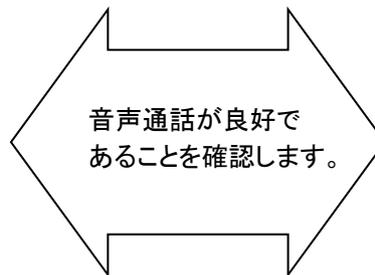
## 2

## ● 受付側アナログ電話機と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認して、アナログ電話機のハンドセット(受話器)をとります。  
アナログ電話機のハンドセット(受話器)から呼出音(トウルルルル)が聴取できることを確認します。  
また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセット(受話器)をとります。



手順② 音声通話が良好であることを確認し、内線電話機およびアナログ電話機のハンドセット(受話器)を置いて終話します。



## おねがい

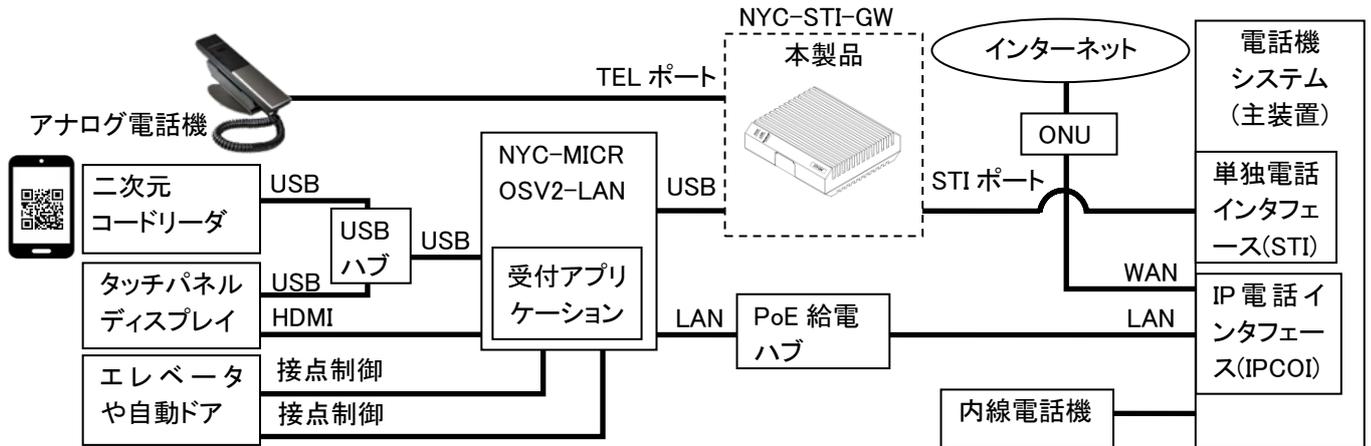
- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～」を参照してください。

### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(二次元コードリーダーに二次元コードをかざしてアナログ電話機で通話をする場合)

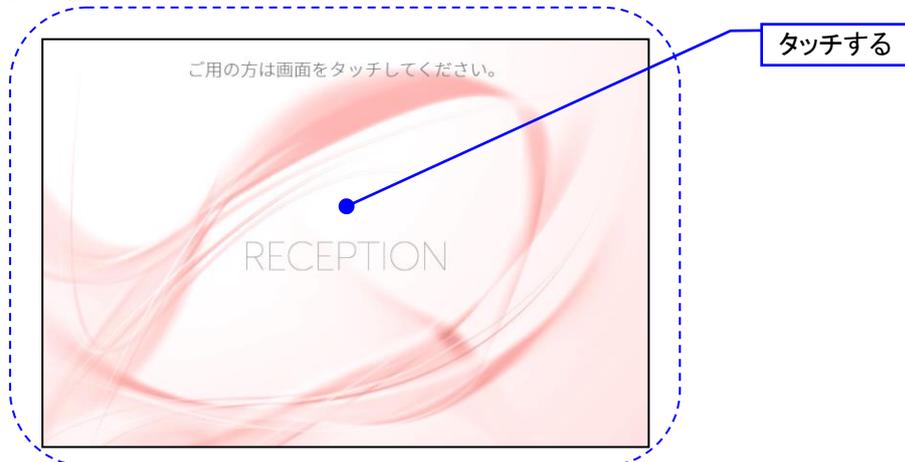
- 動作確認(二次元コードリーダーに二次元コードを読み取らせてアナログ電話機で通話をする場合)  
下図の構成で、アナログ電話機と内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



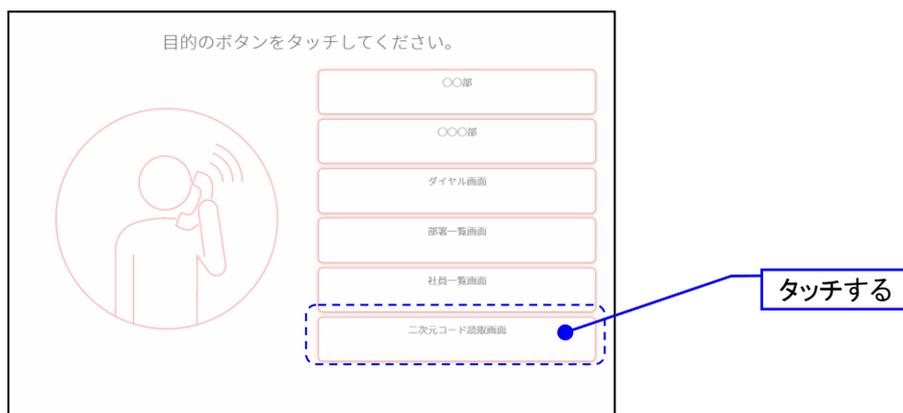
## 1

- 受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 二次元コード読取画面ボタン(※2)をタッチします。



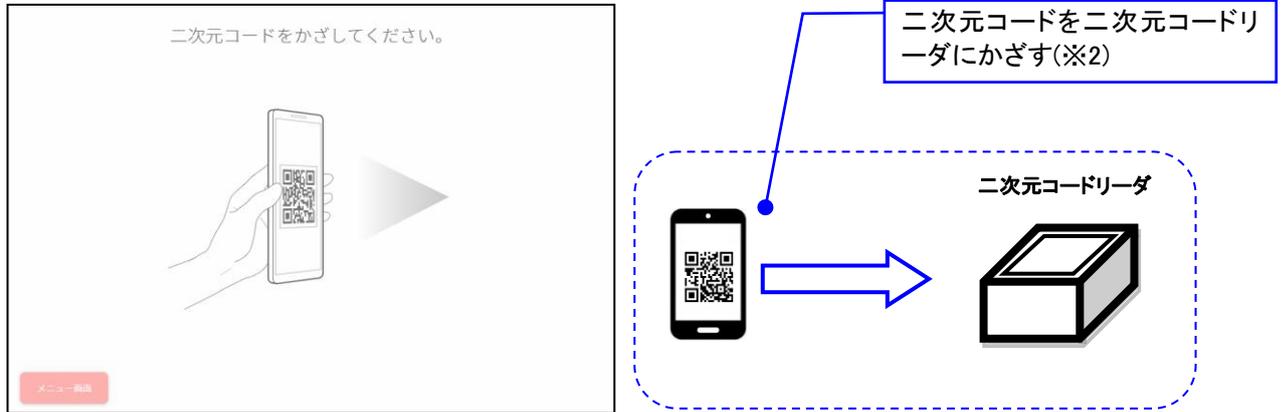
### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたNYC-MICROSV2-LANをUSB接続する必要があります。詳細については、NYC-MICROSV2-LANの「工事説明書」をご確認ください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+単独電話機」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。

7

## ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順③ 事前に発行した二次元コードを二次元コードリーダーにかざします。  
二次元コードの読み取りが終わると、自動で照合を開始します。(※1)



## おねがい

- (※1)二次元コード発行時の設定により、照合完了後の画面が多少異なる場合があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、あらかじめ二次元コードを発行しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。

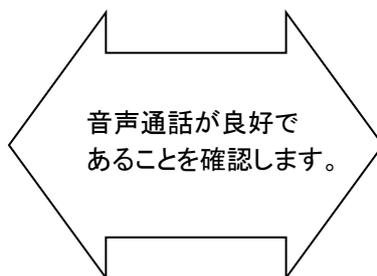
## 2

## ● 受付側アナログ電話機と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認して、アナログ電話機のハンドセット(受話器)をとります。  
アナログ電話機のハンドセット(受話器)から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。  
また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセット(受話器)をとります。



手順② 音声通話が良好であることを確認し、内線電話機およびアナログ電話機のハンドセット(受話器)を置いて終話します。



## おねがい

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～」を参照してください。

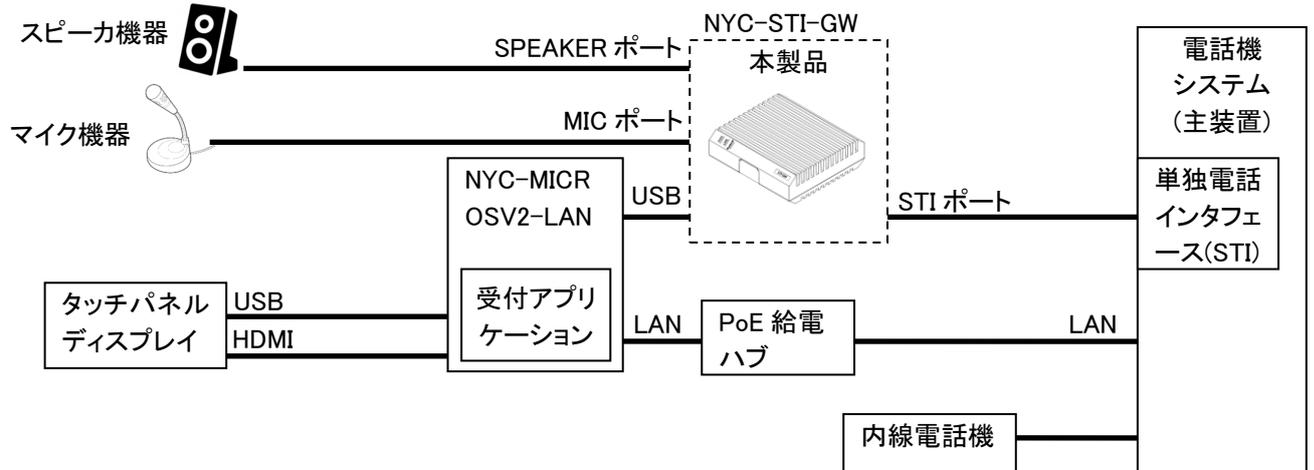
### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

#### ●動作確認(タッチパネルディスプレイをタッチ操作してスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

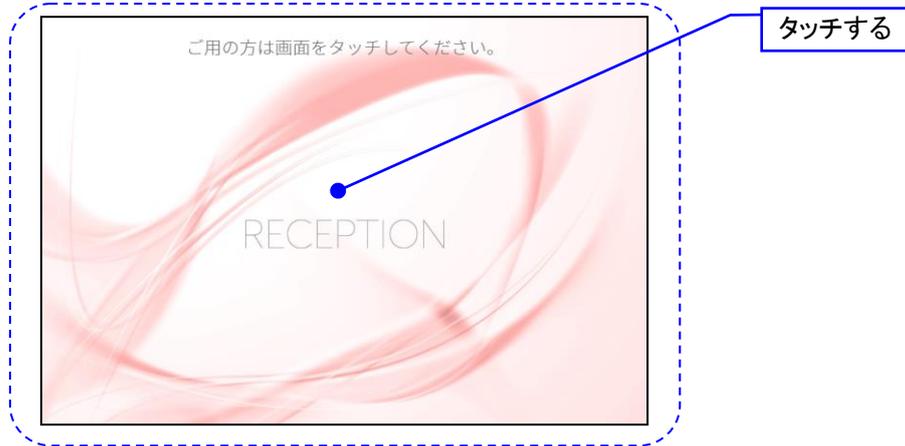
下図の構成で、スピーカ機器とマイク機器を使って内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



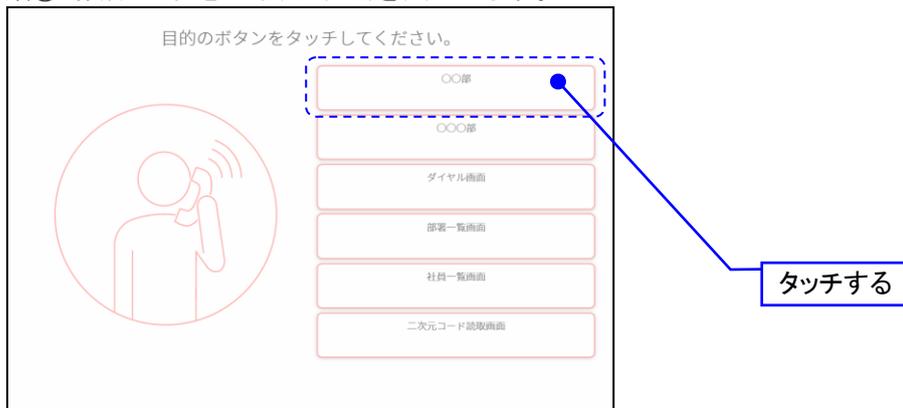
## 1

#### ●受付アプリケーションで発信操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 作成した任意のボタン(※2)をタッチします。



#### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたNYC-MICROSV2-LANをUSB接続する必要があります。詳細については、NYC-MICROSV2-LANの「工事説明書」をご確認ください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+マイクスピーカ」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ●受付側スピーカ機器・マイク機器と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

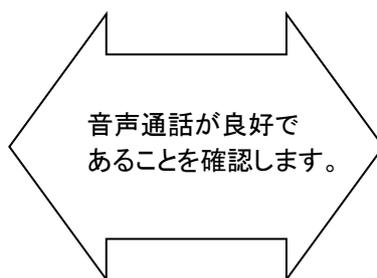
手順① 下記の画面になることを確認します。

スピーカ機器から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。

また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセットをとりまします。



手順② マイク機器に音声を入れ、音声通話が良好であることを確認し、内線電話機のハンドセットを置いて終話します。



## おねがい

- 本製品にスピーカ機器、マイク機器を接続してハンズフリー通話をする構成の場合は、以下の点に注意してください。
  - ・マイク機器の近くには、ものなどを置かないでください。
  - ・マイク機器でお話する人(例:来訪者)の口からマイク機器までの距離が約50cm(目安)程度となるようにマイク機器を設置してください。
  - ・スピーカ機器からの戻り音声が気になる場合は、スピーカ機器の音量を下げて利用してください。
  - ・スピーカ機器、マイク機器の近くに手や顔を近づけないでください。「ピー」と鳴り、ハウリングすることがあります。

## おしらせ

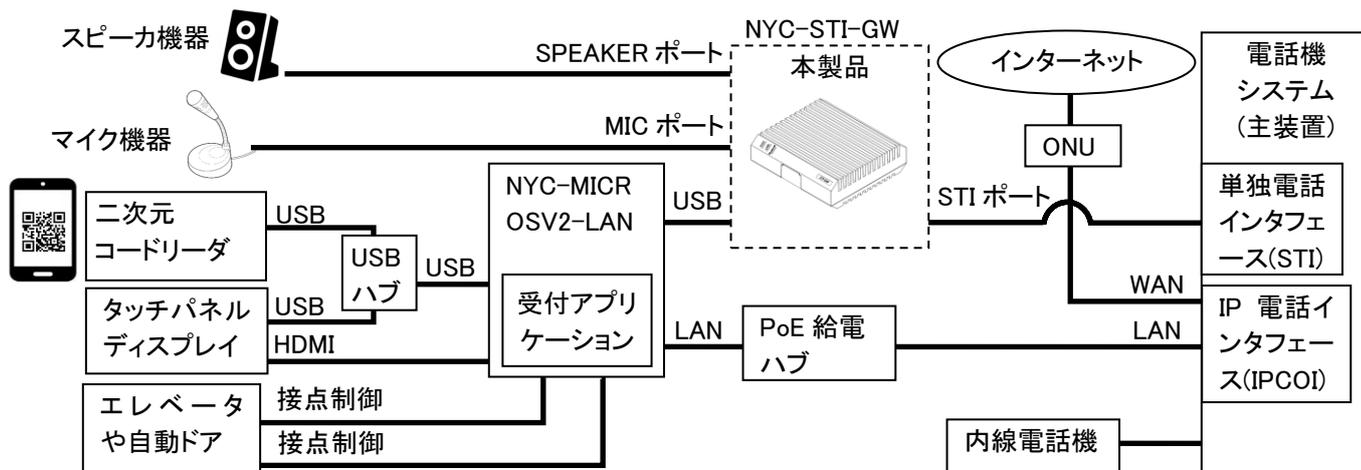
- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～」を参照してください。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、着信応答することはできません。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、通話相手が終話すると、本製品は自動的に終話します。

### 3. 装置の配線と組立

#### 動作確認

(二次元コードリーダーに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)

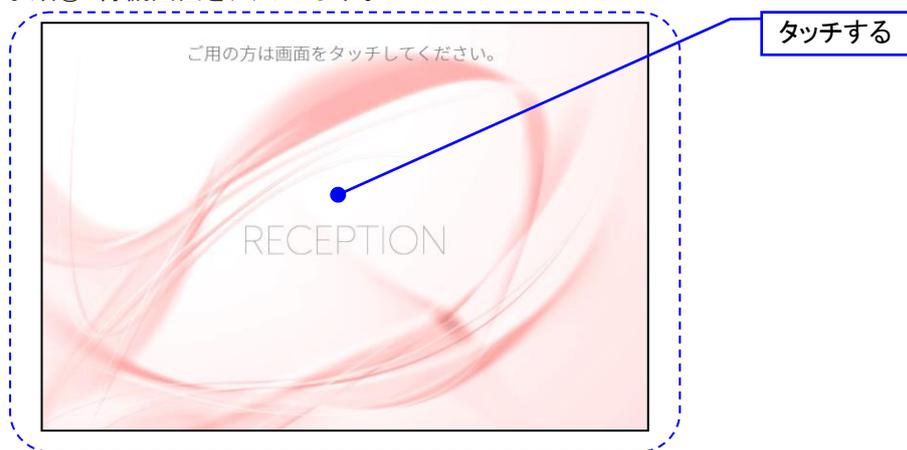
- 動作確認(二次元コードリーダーに二次元コードをかざしてスピーカ機器とマイク機器で通話をする場合)  
 下図の構成で、スピーカ機器とマイク機器を使って内線電話機が通話できることを確認してください。(※1)



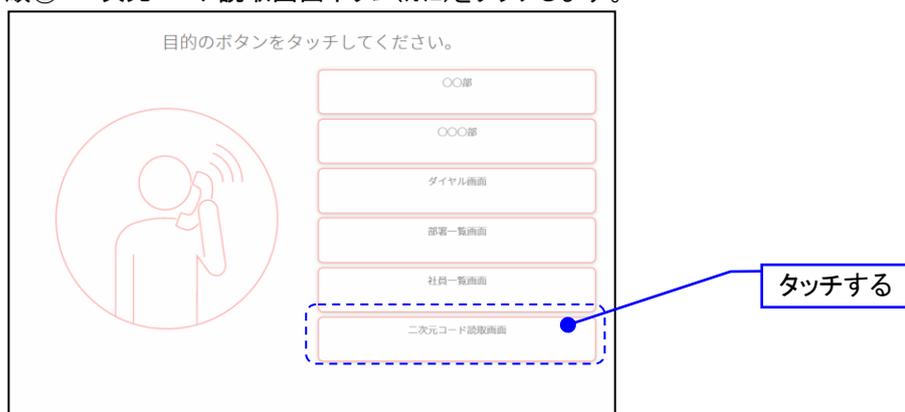
## 7

- 受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順① 待機画面をタッチします。



手順② 二次元コード読取画面ボタン(※2)をタッチします。



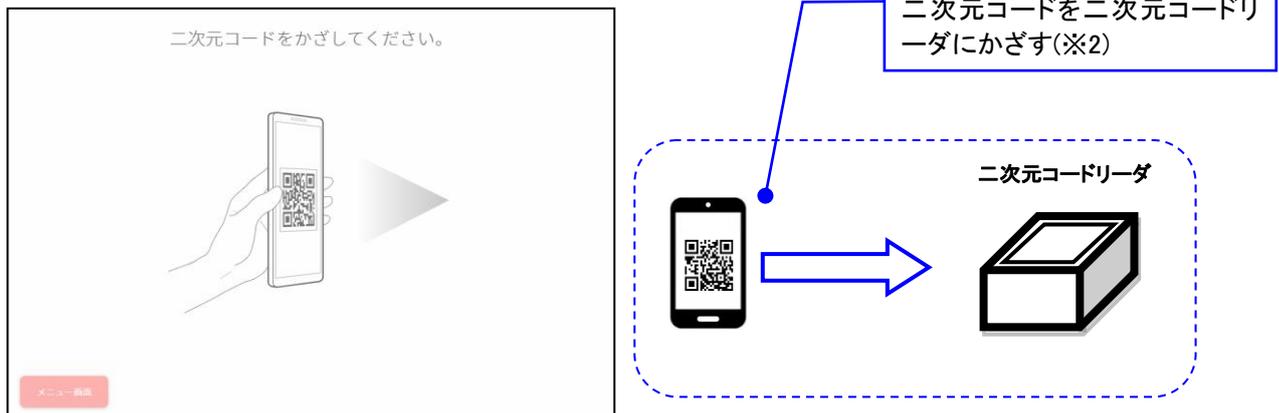
#### おねがい

- 動作確認するには、本製品と受付アプリケーションをインストールしたNYC-MICROSV2-LANをUSB接続する必要があります。詳細については、NYC-MICROSV2-LANの「工事説明書」をご確認ください。
- (※1)動作確認の前に、受付アプリケーションの保守設定画面から、「一般設定」-「制御機器設定」-「STI-GW+マイク・スピーカ」に設定します。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、受付アプリケーションの「ボタン設定」を設定しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「NYC Reception APP MS 取扱説明書」をご確認ください。

7

## ●受付アプリケーションで二次元コードを読み取る操作をする。

手順③ 事前に発行した二次元コードを二次元コードリーダーにかざします。  
二次元コードの読み取りが終わると、自動で照合を開始します。(※1)



## おねがい

- (※1)二次元コード発行時の設定により、照合完了後の画面が多少異なる場合があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。
- (※2)動作確認の前に、あらかじめ二次元コードを発行しておく必要があります。詳細については、受付アプリケーションの「二次元コード発行システム 取扱説明書」をご確認ください。

## 2

## ●受付側スピーカ機器・マイク機器と内線電話機の間で通話ができることを確認する。

手順① 下記の画面になることを確認します。

スピーカ機器から呼出音(トゥルルルル)が聴取できることを確認します。

また内線電話機が着信鳴動することを確認し、内線電話機のハンドセットをとります。



手順② マイク機器に音声を入れ、音声通話が良好であることを確認し、内線電話機のハンドセットを置いて終話します。

スピーカ機器



マイク機器



音声通話が良好である  
ことを確認します。



## おねがい

- 本製品にスピーカ機器、マイク機器を接続してハンズフリー通話をする構成の場合は、以下の点に注意してください。
  - ・マイク機器の近くには、ものなどを置かないでください。
  - ・マイク機器でお話する人(例: 来訪者)の口からマイク機器までの距離が約50cm(目安)程度となるようにマイク機器を設置してください。
  - ・スピーカ機器からの戻り音声が気になる場合は、スピーカ機器の音量を下げてください。
  - ・スピーカ機器、マイク機器の近くに手や顔を近づけないでください。「ピー」と鳴り、ハウリングすることがあります。

## おしらせ

- あらかじめ、本製品と接続する電話機システムの電話機が使用可能であることを確認しておく必要があります。詳細は、電話機システムの取扱説明書、工事・保守マニュアルを参照してください。
- 発信できないなどの不都合がある場合は、本書の「付録 ●トラブルシューティング～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～」を参照してください。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、着信応答することはできません。
- スピーカ機器、マイク機器を利用の場合、通話相手が終話すると、本製品は自動的に終話します。

## 付録

## ●MODE SWITCHの機能詳細

MODE SWITCHで、下表の機能を選択することができます。

電源を切った状態で設定を変更してください。電源を入れたときに変更した内容が有効になります。

スイッチ番号	機能名称	説明	備考
1	USB/Bluetooth接続切替	USB接続/Bluetooth接続切替に使用します。 ON : Bluetooth接続時に使用します。 OFF: Bluetooth機能を使用しないUSBポート接続時に使用します。	(説明1)
2	PB/DP切替	STIポートの回線種別(PB/DP)設定に使用します。 ON : DP回線接続時に使用します。 OFF: PB回線接続時に使用します。	(説明2)
3	未使用	機能割当なし	—
4	未使用	機能割当なし	—
5	初期化	本製品の設定値を初期化する際に使用します。 ON : 本製品起動時、本製品の設定値等を初期化します。 OFF: 通常時	—
6	監視タイマ設定	ダイヤル送出してから一定時間経過しても呼出音(トゥルルルル)が検出できなかった場合、既に相手応答したとみなし、強制的に通話状態に移行する機能を有効/無効にする際に使用します。 ON : 強制的に通話状態に移行します。 OFF: 強制的に通話状態に移行しません。	(※1) (説明3)
7	通話継続設定	スピーカ機器とマイク機器での通話を一定時間で強制的に終話する機能を有効/無効にする際に使用します。 ON : 強制的に終話しません。 OFF: 強制的に終話します。	(※1) (説明4)
8	未使用	機能割当なし	—

(説明1)USB/Bluetooth接続切替は、受付アプリケーションをインストールする機器に応じて切替えます。

iPadを使用する場合、スイッチ番号1をON(Bluetooth接続)にします。

NYC-MICROSV2-LANを使用する場合、スイッチ番号1をOFF(USB接続)にします。

(説明2)PB/DP切替は、本製品のSTIポートに接続する単独電話インタフェースのダイヤル種別に応じて切替えます。

DPの場合、スイッチ番号2をON(DP回線接続)にします。DPIは、20ppsのみ対応です。

PBの場合、スイッチ番号2をOFF(PB回線接続)にします。

(説明3)監視タイマ設定は、ダイヤル送出後の監視タイマを開始するか否かを切替えます。

ONの場合、下記[条件1および条件2]を検出できない場合、16秒後に通話状態となります。

OFFの場合、下記[条件1または条件2のいずれか]を検出し、通話状態となります。

[条件1]単独電話インタフェースの呼出音(トゥルルルル)の出力

[条件2]単独電話インタフェースのL1L2の極性が反転すること

(説明4)通話継続設定は、スピーカ機器とマイク機器での通話を一定時間で強制的に終話するか否かを切替えます。アナログ電話機での通話については、適用されません。

ONの場合、強制的に終話しません。

OFFの場合、3分(180秒)後に終話します。

## おねがい

- (※1)基本的にOFF側での使用を推奨しますが、ON側に変更して使用する場合は、無効番号への発信とならないように各呼出先への発信、および通話/終話動作ができることをご確認の上、使用するようにしてください。詳しくは、お買い求めの販売店もしくは、弊社のサービス・保守窓口へお問い合わせください。

## ●トラブルシューティング ～iPadを使用する場合～

本製品に障害が発生した場合の想定原因と処置を下表に示します。

項番	障害内容	想定原因	処置
1	POWランプが点灯しない。	オプションACアダプタがコンセントに差し込まれていない可能性があります。	オプションACアダプタがコンセントに差し込まれているか確認してください。
		USBケーブルが未接続、または断線している可能性があります。	USBケーブルとの接続を確認してください。
2	発信ができない。	STIポートに接続しているケーブルが断線している可能性があります。	STIポートに接続しているケーブル類や電話機コードの接続を確認してください。
		iPadとのBluetooth接続ができていない可能性があります。	iPadとのBluetooth接続を確認してください。
		単独電話インタフェースと本製品の回線種別(PB/DP)設定が合致していない可能性があります。	MODE SWITCHを確認してください。
		電源起動直後や配線のL1L2を逆に接続した場合は、基準検出機能が動作するため、一時的に発信できない場合があります。	10秒程度、時間経過後に発信操作をおこなってください。
		受付アプリケーションの内線番号設定が間違っている可能性があります。	受付アプリケーションの内線番号設定が正しいか確認してください。
		アナログ電話機利用の場合はハンドセットがあがっている可能性があります。	アナログ電話機のハンドセットがおろされているか確認してください。
3	着信通話ができない。	TELポートにアナログ電話機が接続されていない可能性があります。	TELポートにアナログ電話機が接続されているか確認してください。
		スピーカ機器とマイク機器の利用の場合は着信応答することはできません。	着信応答でも利用する場合は、TELポートにアナログ電話機を接続する構成にしてください。
4	Bluetooth接続ができない。	MODE SWITCHがBluetooth接続設定になっていない可能性があります。	MODE SWITCHを確認してください。
		iPadのBluetooth機能がOFFになっている可能性があります。	iPadのBluetooth機能をONにしてください。
5	スピーカ機器から話中音(プープーツ)が鳴り止まない。(マイク機器、スピーカ機器利用時)	周辺に同じような音を出す機器がある可能性があります。	同じような音を出す機器を遠ざけてください。
		音が反響するような場所に設置している可能性があります。	マイク機器とスピーカ機器の距離を遠ざけたり、スピーカ機器の音量を小さくしてください。
6	スピーカ機器からの音が小さい。	応答した内線電話機がハンズフリー通話をしている可能性があります。	内線電話機との通話は、ハンドセットで行うことを推奨してください。
7	スピーカ機器からの音が途切れる。	マイク機器の設置場所の周辺がうるさい可能性があります。	静かな場所に設置場所を変更してください。
			アナログ電話機を利用する構成にしてください。
8	iPadから内線電話機を呼び出した後、アナログ電話機で通話ができない。	アナログ電話機の直流抵抗が300Ωを超えている可能性があります。	弊社で動作確認したアナログ電話機をお使いください。
9	二次元コードの照合ができない。	iPadがインターネット接続(無線LAN接続)できていない可能性があります。	iPadがインターネット接続可能な無線LAN機器に接続できているか確認してください。
		iPadの時刻設定が正しくない可能性があります。	iPadの時刻設定が正しいか確認してください。
		照合先の情報が正しくない、または未入力可能性があります。	「保守設定」-「NYC Reception情報設定」より照合先の情報を確認してください。

## ●トラブルシューティング ～NYC-MICROSV2-LANを使用する場合～

本製品に障害が発生した場合の想定原因と処置を下表に示します。

項番	障害内容	想定原因	処置
1	POWランプが点灯しない。	USBケーブルが未接続、または断線している可能性があります。	USBケーブルとの接続を確認してください。
		NYC-MICROSV2-LANの電源が入っていない可能性があります。	NYC-MICROSV2-LANの電源が入っているか確認してください。
2	発信ができない。	STIポートに接続しているケーブルが断線している可能性があります。	STIポートに接続しているケーブル類や電話機コードの接続を確認してください。
		単独電話インタフェースと本製品の回線種別(PB/DP)設定が合致していない可能性があります。	MODE SWITCHを確認してください。
		電源起動直後や配線のL1L2を逆に接続した場合は、基準検出機能が動作するため、一時的に発信できない場合があります。	10秒程度、時間経過後に発信操作をおこなってください。
		受付アプリケーションの内線番号設定が間違っている可能性があります。	受付アプリケーションの内線番号設定が正しいか確認してください。
		アナログ電話機利用の場合はハンドセットがあがっている可能性があります。	アナログ電話機のハンドセットがおろされているか確認してください。
3	着信通話ができない。	TELポートにアナログ電話機が接続されていない可能性があります。	TELポートにアナログ電話機が接続されているか確認してください。
		スピーカ機器とマイク機器の利用の場合は着信応答することはできません。	着信応答でも利用する場合は、TELポートにアナログ電話機を接続する構成にしてください。
4	スピーカ機器から話中音(ブープブープ)が鳴り止まない。(マイク機器、スピーカ機器利用時)	周辺に同じような音を出す機器がある可能性があります。	同じような音を出す機器を遠ざけてください。
		音が反響するような場所に設置している可能性があります。	マイク機器とスピーカ機器の距離を遠ざけたり、スピーカ機器の音量を小さくしてください。
5	スピーカ機器からの音が小さい。	応答した内線電話機がハンズフリー通話をしている可能性があります。	内線電話機との通話は、ハンドセットで行うことを推奨してください。
6	スピーカ機器からの音が途切れる。	マイク機器の設置場所の周辺がうるさい可能性があります。	静かな場所に設置場所を変更してください。
			アナログ電話機を利用する構成にしてください。
7	NYC-MICROSV2-LANから内線電話機を呼び出した後、アナログ電話機で通話ができない。	アナログ電話機の直流抵抗が300Ωを超えている可能性があります。	弊社で動作確認したアナログ電話機をお使いください。
8	二次元コードの照合ができない。	NYC-MICROSV2-LANがインターネット接続できていない可能性があります。	NYC-MICROSV2-LANがインターネット接続可能な機器(ルータなど)に接続できているか確認してください。
		NYC-MICROSV2-LANに時刻設定されていない可能性があります。	NYC-MICROSV2-LANに時刻設定されているか確認してください。
		照合先の情報が正しくない、または未入力の可能性があります。	「保守設定」-「NYC Reception情報設定」より照合先の情報を確認してください。

## ●お手入れ(清掃の方法)

本製品を設置した後は、定期的に清掃することをお勧めします。  
本書の「ご利用上の注意 設置後の扱いについて」をご確認のうえ、清掃を行ってください。

本製品以外の接続機器の取り扱い方法や清掃の方法などにつきましては、各機器の説明書に記載の内容をご確認のうえ、取り扱いや清掃を行ってください。

特に、iPad、タッチパネルディスプレイ、二次元コードリーダなどの各入力装置につきましては、よごれが付着すると正常動作とならなくなる可能性がありますので、定期的な清掃をお願いします。

なお、二次元コードリーダの読み取り部等においては樹脂を使用しており、消毒用アルコールによって変質したり、白濁する可能性があります。よごれを拭き取る用途で消毒用アルコールを使用しないでください。  
他の機器においても消毒用アルコールを使用する場合は、使用可否を必ずご確認のうえで使用してください。

**●故障機器の送付先等**

機器が故障した場合には、お買い求めの販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へお問い合わせください。

“はじめにお読みください”に記載してある保証書を修理の際にご提示ください。

ご購入から1年を過ぎた場合、有料修理となります。

保証期間内であっても有料修理となる場合がございますのでご注意ください。

詳しくは、本製品に付属の“はじめにお読みください”の最終ページに記載の無料修理規定をご確認ください。

無料修理規定は、保証書に記載されています。

**●本製品の廃棄について**

本製品を廃棄する際は、産業廃棄物扱いとなります。

各自治体の指示(地域の条例など)に従って廃棄してください。